maturity
マチュリティ

2014-JUL

99

公益社団法人 日本産業退職者協会

JARP

maturity

東日本大震災で被災された方々と
そのご家族の皆さまに
心からお見舞い申し上げます。
皆さまの安全と被災地の一日も早い
復旧・復興をお祈り申し上げます。

公益社団法人　日本産業退職者協会
理事長　榎本　郁夫

２０１１年３月１１日の大震災による未曾有の惨状に対し、全国民が一様に心を痛めております。
「社会に役立ち社会を明るくする活動」を積極的に展開する当協会は被災地域の一日も早い復旧を願うとともに、会員の皆様に救援募金を呼びかけております。
どうかご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。（事務局）

郵便振替　口座番号　00130－3－139353
加 入 者　公益社団法人　日本産業退職者協会
・振込手続には、すでにお送りしてある払込取扱票をご利用ください。
・おそれいりますが、振込手数料はご負担願います。

なお、当協会では協会の情報提供誌「Ｒプラン生活情報誌」及び「私の大切な覚書き」の頒布収入の１％を災害義援基金等に寄付いたします。

公益社団法人　日本産業退職者協会（JARP）
Japan Association of Retired Industrial Persons

目　次 maturity 2014年／第99号

特　　集	NISAの制度と活用法について	佐野　琢磨	2
ふれあいトークサロン	第十八回　安倍政権は“強固な日本”を取り戻せるか —付け入る中･露･韓･朝と四つに組むために—	清水　幹夫	8
	第十九回　東京駅ってどんなところ？	梅原　康義	10
社員総会報告	公益法人二年目の成果と創立三十周年の取組み報告 —平成二十六年度定時社員総会—	事　務　局	14
社会貢献活動	石の上にも“四年”のきたざわサロン	山鹿　素雄	17
マチュリティ談話室	将来の独居高齢者を防ぐ取組み	桑山　裕史	18
	介護保険に思う	高橋　義之	19
	田舎に生まれて	田中美知子	19
	運	永山　義博	20
	大好きなテニスしてますか？	平井　勝子	21
ひとこと「東京五輪」	荒原竹雄／小野利明／加藤文男／川口　喬 木下完治／河野次郎／佐々木弘／菅沼隆夫 中川洋子／中根和子／姫野甯尋／平岡喜三男 比留間文子／福田博吉／山本宗一郎		22
イベントだより	囲碁会／江戸東京歴史散歩の会／園芸クラブ 鎌倉探訪／カメラ同好会／カラオケ同好会／木楽会 四季の会／詩吟同好会／自然を楽しむ会 水墨画教室／竹とんぼ同好会／築地・海鮮丼川柳会 デジカメクラブ／読書くらぶ／PCクラブ 木版画教室／歴史を考える会		24
首都圏だより	神奈川会／京葉会／埼玉会／西東京会		33
広島支部だより	グラウンド・ゴルフを楽しむ会	梅中　義之	37
事務局からのお知らせ		事務局・編集委員会	38
役員名簿／編集後記			40
法人・団体　会員名簿			41

表紙写真／「花田植」（広島県安芸高田市甲立にて）竜田正彦（広島）
裏表紙（会員作品）／岡野静江／越田文子／水島正利／紙田一宏（広島）

NISAの制度と活用法について

大和証券株式会社　営業企画部　佐野 琢磨

一、NISAに対する注目度の高さ

本年一月から導入された「少額投資非課税制度（愛称：NISA）」については、昨年以降、雑誌やテレビCM等の様々なメディアで取り上げられていますので、「ニーサ」という単語については耳にしたことがあるという方も多くいらっしゃるかと思います。

NISAは、毎年100万円の投資を上限に、売却益や配当金が5年間非課税となる制度で、利用するにはNISA口座という専用の口座を証券会社や銀行で開設する必要があります。

口座開設の申込みは、制度導入に先立ち、昨年の10月1日から開始されましたが、昨年末時点で既に口座数が475万口座、申込段階のものも含めると実に556万件に上りました。

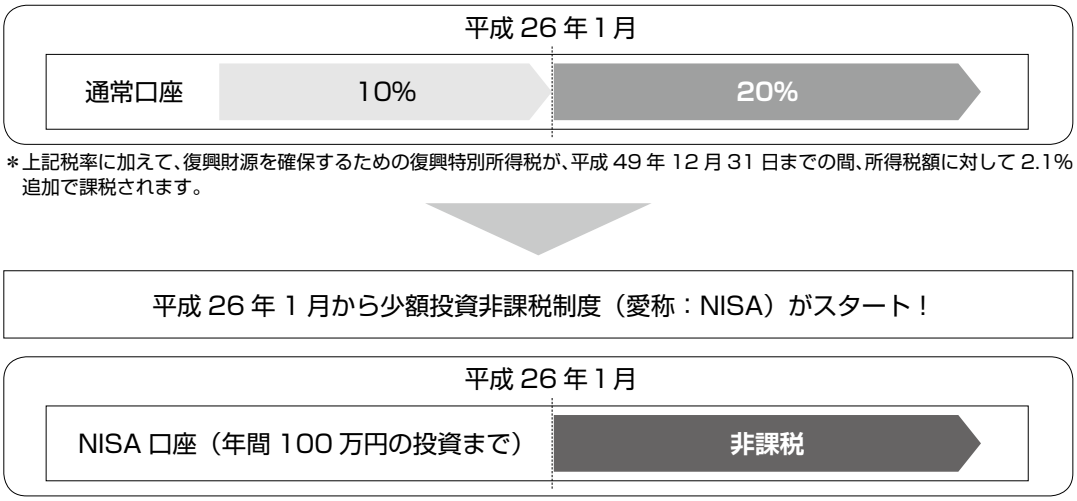
後述しますが、NISA口座の開設は一人一口座まで、さらに満20歳以上の国内居住者が対象という一定の制限があることを勘案すると、制度開始時点での556万件という数字は、NISAに対する注目度の高さを物語っていると言えます。

二、NISA導入の背景

まず、このNISAが導入されることとなった背景について簡単に見ていきたいと思います。図1にもありますとおり、従来、株式や株式投資信託の売却益や配当、分配金に対する税率は10%となっていましたが、今年の1月より20%へと変更されました。

もう少し厳密に言いますと、本来の税率は20%であったものの、マーケット活性化策の

図1　株式等の譲渡益・配当等にかかる税率



一環として平成15、16年度に導入された証券優遇税制により、一時的に10％に軽減されていた税率が今年から20％に戻ったということになります。

そうは言っても、個人投資家の皆さまにとっては影響の大きい税制改正になるため、マーケットへの悪影響を緩和しつつ、自助努力に基づく資産形成を支援・促進し、家計からの成長マネーの供給拡大を図るために制度化されたのが、この「少額投資非課税制度（愛称：ＮＩＳＡ）」ということになります。

ＮＩＳＡは、イギリスの「Individual Savings Account」、通称「ＩＳＡ」を参考に作られた制度で、イギリスでは広く国民の資産形成・貯蓄の手段として定着しています。そのため、日本においては、「ＩＳＡ」に日本の頭文字である「Ｎ」を加えて「ＮＩＳＡ」という愛称で呼ばれることになりました。

佐野 琢磨 氏

三、ＮＩＳＡ活用のポイント

ＮＩＳＡの活用ポイントは３点挙げられます（図２）。まず１点目は「毎年最大１００万円までの非課税投資を10年間にわたって行える」という点です。

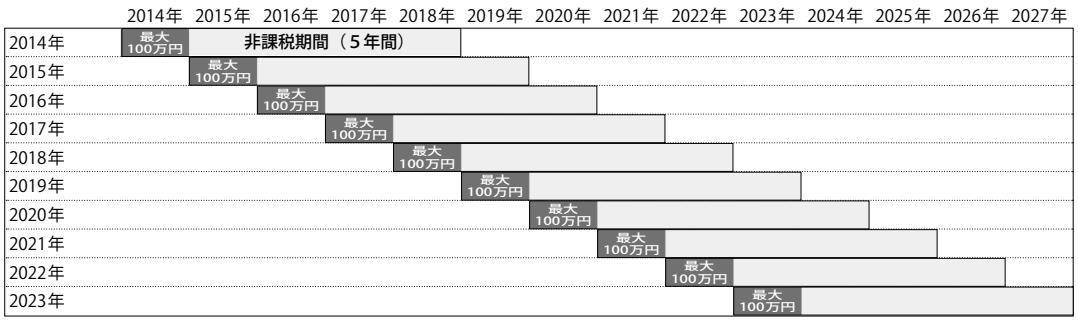
この１００万円は「残高」ではなく、あくまでも１００万円までの「投資」が非課税の対象になるというところがポイントです。

例えば、ＮＩＳＡ口座で株式を80万円分購入して、その後、値上がりによって残高が１００万円を超えたとしても、非課税投資枠の20万円が引き続き残っていることに変わりはありません。あくまでも投資する元本で１００万円分までが非課税となるということです。

ポイントの２点目は、「ＮＩＳＡ口座で保有すれば５年間にわたり非課税」という点になります。ＮＩＳＡ口座で購入した株式や株式投資信託によっていくら売却益や配当・分

図２　NISA の活用ポイント

①	毎年最大 100 万円× 10 年間の非課税投資が可能！
②	NISA 口座で保有すれば５年間にわたり非課税！
③	日本にお住まいの満 20 歳以上の方なら誰でも利用可能！



配金が出たとしても、5年間については非課税となります。この5年間というのは暦年ベースになりますので、投資をした年を含めて5年目の年末までが非課税期間になります。

そして、ポイントの3点目、では誰がNISA口座を開設できるのかという点ですが、日本にお住まいの満20歳以上の方であれば誰でもご利用可能となっています。

つまり、条件を満たす全員に与えられた非課税の権利ということができます。

四、NISAの利用上の留意事項

次にNISAを利用するにあたっての留意事項について見ていきます。

まず1点目は「NISA口座は一人一口座のみ」ということになります。これはNISA口座での非課税枠がどのぐらい残っているかについての把握が、複数の金融機関に口座がまたがってしまうと難しいということから一人一口座しか開設できないとされています。また、通常の口座と異なり、NISA口座は一旦開設すると、同年中は金融機関を変更できませんので、口座開設する金融機関は慎重に選択する必要があります。

留意事項の2点目は「損失が生じた場合、他の口座の譲渡益等との損益通算ができない」ということです。通常であれば、特定口座の利用や確定申告により、売却損益や配当等を通算することができますが、NISA口座内での利益等については非課税ですので、損失についても「なかったもの」とみなされます。

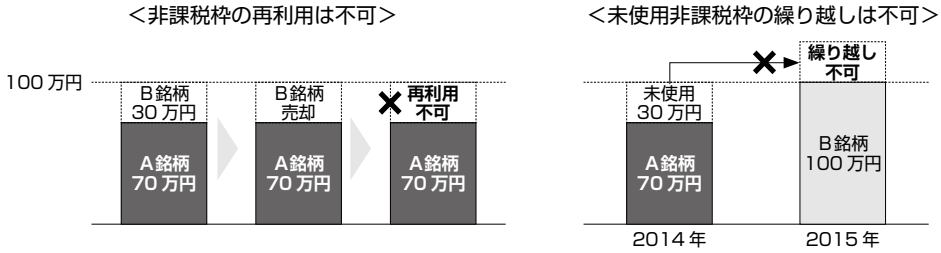
留意事項の3点目は、「一度売却するとその非課税枠の再利用はできない」という点です。例として図3で挙げていますが、A銘柄を70万円、B銘柄を30万円購入して、その後、B銘柄を売却した場合、30万円分の枠が空くわけですが、制度としてはこの空き枠については再度利用することはできません。

4点目は「使用しなかった非課税枠の翌年以降への繰り越しはできない」という点です。例えば、2014年にNISA口座で70万円しか投資をせずに30万円の枠を残した場合、その30万円を翌年以降に回すことはできません。

留意事項の5点目は、「配当等は口座を開設した金融機関で受取るもののみが非課税になる」という点です。

図3　NISAの利用上の留意事項

①	NISA口座の開設は1人1口座のみ
②	損失が生じた場合、他の口座の譲渡益との損益通算は不可
③	一度売却するとその非課税枠の再利用は不可
④	使用しなかった非課税枠の翌年以降への繰り越しは不可
⑤	配当等は口座を開設した金融機関で受取る方式のみ



配当を受け取る方法としては、図4のように4パターンがありますが、何も手続きをしていなければ「領収書」が送られてきて金融機関に持参する方式になりますので、多くの方はこの方式を採られているかもしれません。

しかし、配当金をＮＩＳＡ口座で受け取らなければ非課税とは認識されませんので、非課税メリットを受けるためには「株式数比例配分方式」にしておく必要があります。

五、ＮＩＳＡ口座で購入できる商品

ＮＩＳＡで購入できる商品は制度上、上場株式や株式投資信託等になりますが、その中でどの商品を取り扱うかは各金融機関に委ねられています。従って、金融機関によって取り扱う商品が異なることになります（図5）。

例えば、銀行ではそもそも株式を取扱っていませんし、証券会社であっても取り扱う商品数やサービスが異なります。

留意事項において触れましたように、ＮＩＳＡ口座は一旦口座を開設すると同年中は金融機関を変更できないということになりますので、金融機関を選ぶ際には、単に身近だからというだけではなく、購入できる商品や利用できるサービスがどの程度揃っているかについて、しっかりと確認することが重要と言えます。

図4　配当金の受取り方法

○	株式数比例配分方式	証券会社の口座に記録された株式の数量に応じた配当金をその証券会社の口座で受け取る方式
×	登録配当金受領口座方式	お客さまが証券会社で保有されているすべての株式の配当金について指定する銀行の預金口座で受け取る方式
×	個別銘柄指定方式	個別銘柄ごとの配当金をお客さまが指定する銀行の預金口座で受け取る方式
×	配当金受領書方式	お客さまのご自宅へ郵送される「配当金領収書」を郵便局等の金融機関に提示して受け取る方式

ここでは例として、大和証券のＮＩＳＡ（ダイワのＮＩＳＡ）ではどのような商品を取り扱っているのかについて図6に取り上げています。

ダイワのＮＩＳＡでは、国内株式や国内株

図5　金融機関の取扱商品イメージ

		Ａ証券	Ｂ証券	Ｃ銀行
取扱商品	上場株式（ETF・REIT 含む）	○	○	×
	外国株式	○	×	×
	国内株式投信	○	○	○
	外国株式投信	○	×	×
サービス	株式累積投資	○	○	×
	株式ミニ投資	○	×	×
	投信積み立て	○	○	○

式投信に加え、外国株式や株式ミニ投資、るいとう（株式累積投資）、投信積立というように、株式、株式投資信託に関わる一通りの商品を取り揃えています。特に、株式投資信託については、投資初心者の方に適した17銘柄を「ダイワのＮＩＳＡ専用ファンド」として設定し、購入手数料を無料で提供しています。

六、積立投資の活用

ＮＩＳＡは「少額投資非課税制度」という名称のとおり、投資金額の上限が年間１００万円と比較的少額であること、一度売却した場合には非課税枠の再利用ができないこと等から、多額もしくは頻繁な取引を行う投資経験者よりも、投資初心者が少額からこつこつと長期にわたって資産形成を行っていくのに適した制度設計になっていると言えます。そのようなＮＩＳＡの制度的特徴と親和性の高いサービスとして、ＮＩＳＡの導入を機に注目を浴びているのが積立サービスです（図７）。

積立サービスは資産を複数回に分けて購入することで、購入価格を平均化して投資リス

図６　ダイワの NISA

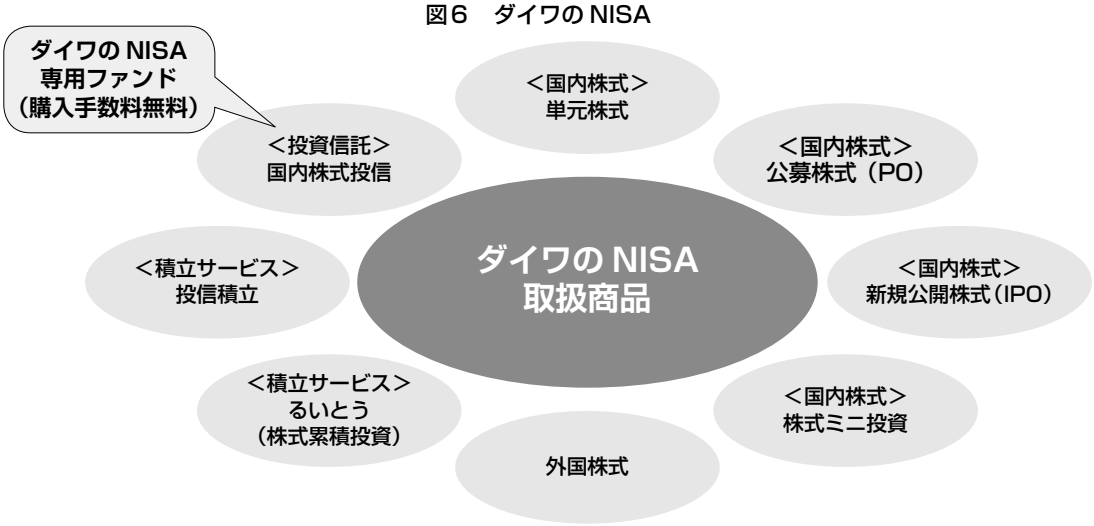
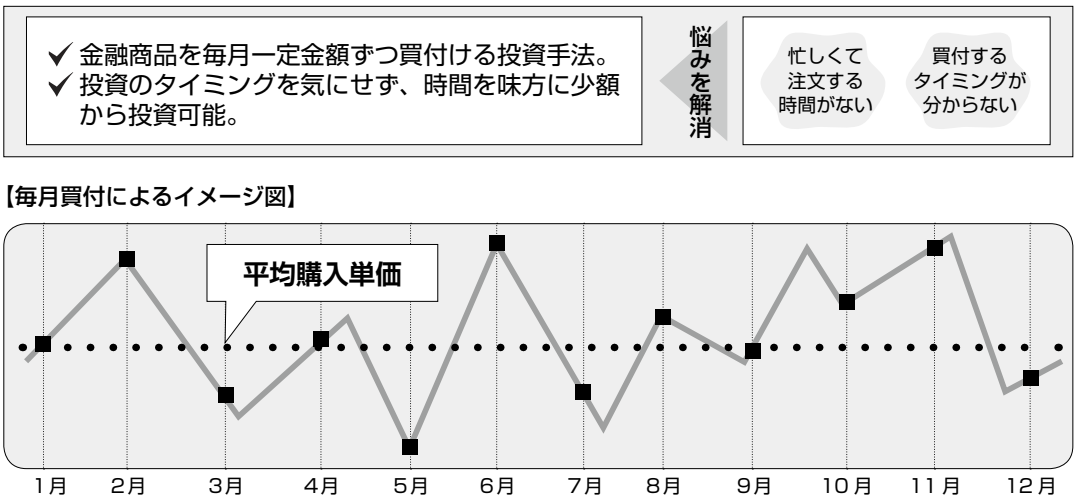


図７　積立サービス



クを分散する「時間分散」の手法を活用したサービスです。通常、毎月一回の頻度で、一定金額ずつ株式や投資信託を買付けていきますので、価格の安いときには多めの、価格が高いときには少なめの口数（株数）を購入しますので、全体で見れば購入単価を平均化してリスクを分散するのに適していると言えます。

具体的には、株式を毎月一定額ずつ買付けていくサービスとして「るいとう（株式累積投資）」、投資信託を買付けていくサービスとして「投信積立」があります。例えば大和証券ですと、るいとうは1万円から、投信積立は１０００円からの積立てが可能で、少額から手軽に始めることができます。対象銘柄は、るいとうが約１４００銘柄から、投信積立が約２４０銘柄からお好きな銘柄をお選びいただくことができます。マーケット環境に左右されたり、買うタイミングに悩む必要がないのも大きなメリットになるかと思います。

七、最後に

ＮＩＳＡの利用に当たっては、口座開設は一人一口座に限られる点や、他の口座で保有している資産との損益通算はできないなど、ＮＩＳＡ特有の留意点がいくつか存在します。しかし、個人投資家の皆様の利便性向上に向けた議論は既に始まっています。５年間の非課税期間の長期化・恒久化や毎年１００万円の非課税枠の拡大などが話題に上っており、制度の見直しを通じた更なる利用者の裾野拡大が期待されるところです。

貴重な非課税の権利であるＮＩＳＡをぜひ有効にご活用いただき、皆様の資産形成にお役立ていただければと思います。

当資料は、2013 年 1 月 29 日に発表された「平成 25 年度税制改正の大綱」等を元に作成しています。今後の法令・制度の変更等により内容が変更される可能性がありますのでご留意ください。

手数料等およびリスクについて

- 株式等の売買にあたっては、「ダイワ・コンサルティング」コースの店舗（支店担当者）経由で国内委託取引を行う場合、約定代金に対して最大 1.24200%（税込）但し、最低 2,700 円（税込）の委託手数料が必要となります。また、外国株式等の外国取引にあたっては、現地諸費用等を別途いただくことがあります。
- 株式等の売買等にあたっては、価格の変動による損失が生じるおそれがあります。また、外国株式等の売買等にあたっては価格変動のほかに為替相場の変動等による損失が生じるおそれがあります。
- 信用取引を行うにあたっては、売買代金の 30％以上で、かつ 30 万円以上の委託保証金が事前に必要です。信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、損失の額が差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。
- 債券を募集・売出し等により、又は当社との相対取引により売買する場合は、その対価（購入対価・売却対価）のみを受払いいただきます。円貨建て債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。外貨建て債券は、金利水準の変動に加え、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、債券の発行者または元利金の支払いを保証する者の財務状況等の変化、およびそれらに関する外部評価の変化等により、損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託をお取引していただく際に、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費、等をご負担いただきます。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

- 取引コースや商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書、等をよくお読みください。
- 外国株式、外国債券の銘柄には、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行われていないものもあります。

商品等　大和証券株式会社　金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第 108 号
加入協会　日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ふれあいトークサロン

第十八回　平成二十六年一月十七日（金）（参加者四十名）
■税理士法人 スバル合同会計ビル 四階において開催■

第十九回　平成二十六年五月八日（木）（参加者四十五名）
■税理士法人 スバル合同会計ビル 四階において開催■

〈第十八回〉

安倍政権は〝強固な日本〟を取り戻せるか
―付け入る中・露・韓・朝と四つに組むために―

政治ジャーナリスト　元毎日新聞論説委員長　清水　幹夫

一九五十年代後半から六十年代初めのころ、中国全土に広がった「四害撲滅運動」というものがありました。ネズミ、スズメ、ハエ、カを不衛生な「四害」とし、毛沢東の指示で全国的な撲滅運動が繰り広げられたのです。特に、大量のスズメが穀物を食い荒らし、折からの穀物不作と相まって多くの餓死者が出ました。そこで毛沢東の号令でスズメ撲滅に乗り出したのです。

その方法はといえば、あくまで人海戦術。人々は棒やドラで畑のスズメを追い散らし、他の畑に逃げたスズメを今度はその地の人々が同じ方法で追い散らします。ついにどこにも下りられなくなったスズメは次々に落下、待ち受けた民衆が難なく捕まえて貴重な栄養として胃袋に収めたというのです。

一年間でなんと二十一億一千万羽のスズメがこうして姿を消したといいます。ごく一部の科学者が、生態系が破壊され、スズメのエサである害虫が激増する、と異を唱えましたが、当時の毛沢東の権威と権力は絶大。民衆は熱狂的にスズメを退治しました。

ところが、案の定、今度は大量の害虫が穀物を食い荒らし、かえって餓死者が増えてしまいました。しまったと思ったのか毛沢東は素知らぬ顔をして密かにスズメを四害から外しトコジラミに変えたのです。これは実話で当時外国メディアが撮影したニュース映画が残っているそうです。

人々の口をつぐませて、世論を「一つの声」に見せて外交を操ろうとするスタイルは今日でも変わりません。こうした〝特性〟や、同じ「漢字圏」の国であるが故に、日本の側がしばしば誤解しがちな点も多いことを十分わきまえて対応しなければならないのです。

中国は漢字だけで平仮名、片仮名は有りません。例えば「毎度ご来店有り難うございます」という日本での看板をみて、中国の人達は「毎度来店有難」つまり「店に入るたびに災難があるのに、どうしてたくさんの人がそんな店に入っていくのか」と不思議に思うのだそうです。

語感もしばしば異なります。中国では「国有化」とは、単に国が保有するのではなく、国の施設を作ったり、軍が守備に乗り出す、といったニュアンスなのです。日本政府が行った「尖閣諸島の国有化」は、こうしてたちまち中国全体の反日の核になったのです。

日本には約六千八百の島があり、そのうち

人が住んでいるのは四〇〇余に過ぎません。しかし、面積では世界の約二〇〇の国々のうち六十二位ながら、いわゆる排他的経済水域の面積では世界の六位。普段気がつきませんが実は、日本は世界有数の海洋国家なのです。

戦争の世紀とされた二十世紀から時代は「資源戦争の二十一世紀」へと進んでいます。隣国中国はかつての「陸」重視の国から「海・空」重視の国へ転換、豊富な海底資源をめぐる軋轢が激化したのは、当然の成り行きと考えてもよいでしょう。

ただ、ともすれば「中国脅威論」が実態以上に流布されているのは要注意です。経済力、軍事力、そして国としてのパワーがまもなく

清水 幹夫 氏

中国が米国を追い越す、といった議論も盛んですが、「中国が米国を追い抜く」日はこないと冷静に分析する専門家も少なくありません。その理由をここで詳述する時間がありませんが、要するに実態以上に脅威論に振り回されないこと、なのです。

いま、中国では共産主義思想が若年層の人気を失い、共産党政権は代わってナショナリズムを前面に打ち出している、ともされています。だから日本に対しては、妥協的、譲歩的な外交姿勢はタブーとなります。

安倍首相は「中国との対話のドアはいつでも開けてある」と強調しますが、開けておくだけではいつまで経っても相手は訪ねて来ません。「自由と繁栄の弧」外交と称して北欧からアラビア半島、インド洋、ASEAN、と結ぶ線の国々を頻繁に行き、実質的な〝中国包囲網〟的な安保外交を続けています。

ただ、「力には力を」といった発想だけでは、対話の扉は開かないでしょう。公害対策、水の確保策、インフラ整備策、高齢社会の対応策等々、双方の共同作業が効果的な課題はこと欠きません。「力」は力でも、いまこそ「外交力」の発揮が求められていると思います。そして、相手のいやがることは極力控えることです。それは個人同士の付き合い方も同じでしょう。

一方、韓国との正常な関係もなかなか進みません。なぜでしょう。朴現大統領の時代以前から韓国は、外交・経済・文化など二国間の親密なパートナーを従来の日本ではなく中国に変えていこうとしているのです。中国の急速な経済大国化を睨んだ上での国としての選択であろうことは想像に難くありません。

朴大統領の父はかつて日韓国交正常化を実現した大統領ですが、最近は「正常化のとき必要以上に日本に譲歩した」と批判もされている、とも聞きます。それ故に、娘である現大統領は親日的な言動はとれない、という背景もあるようです。

韓国側が何度となく従軍慰安婦問題をもちだすのに対して当方には「政府間では正常化の際に決着済み」なのに、どうして…といった疑念がわくのは事実です。しかし韓国社会にはそうした法的な解決とは別に、情緒面のわだかまりは長期間続くといいます。

従ってこの問題の根本的な解決は極めて難しいです。日本としては、常に韓国の主張を冷静に受け止めながら粘り強く対応し、「解決済み」という一点張りではなく、極力具体

的な対応策も示していかなければならないと思います。

プーチン長期体制下の日露関係は複雑です。長い懸案の北方領土問題の解決には、日露双方とも強力な政権の存在が不可欠です。といって、プーチン大統領の時代は解決のチャンス、とみるのは禁物。国際社会の中で、プーチンのロシアは「したたかな」外交を展開しています（注・その後のロシアの力によるウクライナ・クリミア併合問題勃発で、北方領土の解決はまた遠のいた、との見方が広がっています）。ここはまず「対話のドア」を開き続け、国際情勢の変化をにらみながらチャンスをうかがう策です。

日朝関係も安倍政権でもほとんど進展のなきまま推移しています。なんといっても、北朝鮮は常に米国に顔を向けています。国内外の問題で非常に困難な状況に陥ると、豹変外交に出る、というのが北朝鮮外交の特徴の一つ。日本としては常に「水面下の水かき」を絶やさないことに尽きます。（注・その後、北朝鮮は拉致問題の再調査を行うことで日本政府と合意、北側がどこまで実行するのか注目されます）。

安倍政権はいわゆる「一強多弱」の、かつてない盤石な基盤に乗っています。おまけに、次の国政選挙まで少なくとも二年半以上もあります。こうした「黄金の長期・大与党」体制を手中にしたメリットをどう生かしていくのでしょうか。いま必要なのは、姑息な手段に走らず、守りを固めつつも時に、鎧に身を固めた相手を揉みほぐすのに有効な温風も送ってみせる、といったしたたかな外交・安全保障力ではないでしょうか。

〈第十九回〉東京駅ってどんなところ？

東日本旅客鉄道株式会社
第二十三代東京駅駅長
取締役　梅原　康義

―新しくなった東京駅―

東京駅は今年の十二月二十日で満百歳を迎えます。その歴史の中で様々な経験をして参りました。特に先の大戦で大きなダメージを受けておりましたが今、丸の内側が元の形に戻りました。八重洲側は「グランルーフ」という大きな屋根が完成し、今秋には駅前広場も出来上がります。どうして八重洲口をこのような形にしたかということからお話いたします。

元々この南北にわたるデッキとルーフのある所は、ご存知「大丸デパート」がありました。そしてその前には「八重洲大通り」という太い通りが東京湾の方角から駅に向かって通っております。ここに海からの風が渡っているのですが、それが東京駅にぶつかってその先に抜けるのを妨げている、ということなんです。ですから大丸デパートの入っている「鉄道会館ビル」を取り除けば東京湾からの爽風が駅を抜けその先の皇居を抜け新宿方面へ吹いていけるというわけです。それと、八重洲口の駅前はとても狭かったので広い駅前広場を確保しようということになりました。

更に環境対策として植栽に雨水を利用した

り、壁面緑化などの工夫もいたしました。

そして話題になった丸の内側ですが、昨年十月に第二次世界大戦の戦火により焼失した三階部分を復原いたしました。八重洲は昭和に入ってからの駅舎なので丸の内の駅舎が元々の東京駅となります。因みに「復原」という言葉は本来「復元」と書きますが完全に元に戻す訳ではなく表の形だけを戻す場合は「復原」と書くらしいです。

駅についてよく言われたのは、「東京駅って戦艦大和と同じ位の大きさだ。」ということなんです。気になって今回調べてみました。

丸の内駅舎は全幅が三三五メートルに対し、大和は全長二六三メートル。高さは東京駅がドーム上に立っている棒まで入れると四十六メートル、大和は五十一メートルですが、十一メートルは海の中なので海上では高さ四十メートル。駅舎の総重量七万トン、大和の基準排水量六万四千トン。ということで丸の内駅舎のほうが若干大きいという結果でした。何れにしても戦艦大和と同じぐらい大きいものが横たわっていると思うと、改めて駅舎の大きさが実感できた次第です。

三階部分を復原したことばかりが注目されますが、内部の人間からみて一番大変だったのは、実は地下工事なんです。丸の内駅舎は総武線快速地下ホームを除いて地下がありませんでした。何故かというと元々一万一千本程の松の杭が打ち込まれていたからなんです。

今回の工事では、まずこの杭を全て退けまして駅舎を仮支えした上で、土をくり抜いて地下室を作りました。何故作ったかというと免震構造にするためです。丁度仮支えしていた時期に三・一一の大震災に遭遇しましたが、幸い何事も無く工事は完了いたしました。

―駅周辺の環境の変化―

旧国鉄の頃本社は丸の内北口の、現在オアゾというビルが建っている所にありました。その頃休日出勤しても附近に人は全く歩いていませんでした。ところが現在はすっかり再開発され休日も大変賑わっています。でも基本的には「サラリーマンの街」というイメージです。それに対し八重洲側は昔から商業の街、エネルギーを感じさせる街ですね。八重洲、日本橋、京橋あたりも新しい商業施設がどんどん出来ています。何れにしても首都東京の象徴である東京駅は丸の内と八重洲を合わせてひとつ、と皆様に思っていただいているんだと感じています。

―東京駅の長い歴史―

東京駅の沿革をお話します。元々丸の内という場所は大名屋敷が多くあった所です。それが明治になり大名屋敷が取り払われて、後には陸軍の練兵所があったらしいです。

明治十九年この地に官庁を集中させるという計画が立ち上がりました。一方、当時の鉄道は新橋から横浜に向かって走っていたものと上野から北上していた鉄道があり、この南と北の鉄道を結んでいないというのは都市計画上よろしくないという話がありました。ただ、今東京駅のある場所は先程の通り官庁集中計画が既にあったので、今の銀座のあたりに東京駅を作ろうという計画になりました。

当時銀座は築地の岸も近い、隅田川も近いということで、物流という観点で考えれば最適な場所だったのでしょう。ところが財政難により官庁集中計画は中止、東京駅の建設場所は現在の位置に設定されました。しかも、「街を分断するのはよくない。」という発想から線路の高架化という、当時では画期的な計画となりました。

途中、日清・日露戦争による中断をはさみ工事は進められました。特に日露戦争の勝利は「列強大国に勝った」と国全体の高揚感も相まって多額の予算が下り無事高架化工事が完了、豪華な丸の内駅舎が完成したのです。

大正十二年の関東大震災でもビクともしない駅舎は当時多くの被災者の避難場所になったということです。昭和四年には八重洲口が開設され、今の東京駅の形がほぼ完成します。そして昭和二十年の大空襲により丸の内駅舎被災、八重洲駅舎焼失に見舞われるのです。

八月十五日終戦。しかしその十二月にはもう駅舎修復工事が始まります。何も無いので使わなくなった戦闘機のジュラルミン等も利用しました。丸の内の南側、当時ニュートーキョーという居酒屋さんに上がる螺旋階段の真ん中の棒は何と伊号潜水艦の潜望鏡なんです。ということでありあわせの材料で修復していった訳です。そしてそれから一年半かからずに復旧工事が完了します。戦後日本人のバイタリティは凄いものがあったんですね。

昭和二十九年には八重洲に六階建ての新駅舎が完成、「大丸百貨店」が開業します。四十三年には十二階建てに増築しました。前後しますが三十一年には地下鉄丸の内線が東京駅に乗り入れ、そして昭和三十九年、いよいよ「夢の超特急」東海道新幹線が開業します。

梅原 康義 氏

―東京駅の現況―

首都東京は世界で最も人口が多い都市で、都内総生産は九十二兆円。ニューヨークの五十兆、上海の二十兆を凌ぎ都市ＧＤＰ世界一位です。国別のＧＤＰと比較しても世界十四位のメキシコと同経済規模。その玄関口、東京駅は一日の乗降者数が八十万人、乗換者数が百万人で計百八十万もの人が一日に東京駅を行き来している計算になります。最近の特徴としては、荷物の一時預かり数が急に増えました。例えば昨年五月五日の一日だけで有人預かり所とコインロッカー合計で約一万個の手荷物をお預かりしました。ほんの少し前まではこんなことなかったんです。駅を乗り継ぐだけの方が多かったのですが、今、東京駅周辺が観光地化したため、乗降するお客様が急激に増えたことが原因です。列車運行数はざっくり一日四千本。朝四時半～深夜一時半の間で十数秒に一本運行している計算になります。それからＪＲ高速バスが毎日五百本八重洲側から出発しています。

経費面で見てみますと、一日の使用電力量は三十万キロワット。一般家庭約三万戸の使用量に匹敵します。屋根に太陽光電池パネルを設置しておりますが、全体の〇・三パーセントを賄う程度です。水道使用量は一日千四百七十二立方メートル。

駅構内では色々な事故が起こりますが、エスカレーターに係わる事故が最も多く、ほぼ毎日落ちたり転んだりの事故が起きています。これは非常に問題視しています。今鉄道業界挙げて「皆が安心して乗れるエスカレーターに。」運動を行っています。よくあるケースは脇に置いたスーツケースを歩いて上り下り

する人が引っ掛けて下にいる別の人に激突するという悲惨な事故です。皆様もエスカレーターでは歩かないように御協力ください。

―ＪＲ東日本について―

我々ＪＲ東日本は昭和六十二年の国鉄改革を出発点として、「今までの何が悪かったのか。」をテーマに自ら考え行動し、自主自立経営を目指し今日まで走って参りました。そして三年前の東日本大震災。ここを第二の出発点ととらえ、私たちが行っている「仕事」の意味と重さを今一度考えようということになりました。震災への対応と復旧に示された一人ひとりの社員の力。毎日の地味な取組みや訓練の大切さ。

『安全が全てではないけれど、安全が無ければ全て無い。』

この言葉は京浜急行様から教えられた言葉ですが、この言葉を肝に銘じ、更なる可能性を追求し、これからも進んでいこうと考えております。本日はご清聴ありがとうございました。

（抄録／山田雅彦）

「ふれあいトークサロン」について　ご報告とお願い

ふれあいトークサロン委員会　委員長　西納　政光

「ふれあいトークサロン」にご支援をいただき、先ずもってお礼を申し上げます。

4年前に、百回記念講演で幕を閉じた「フリーサロン」の後を継いでスタートしてから、次回で20回目を迎えることになりました。

今後予定している内容は次の通りです。

【第20回】
日時：10月28日（火）14時30分
講師：井上国春氏（当協会　常任理事）
演題：「生きがいとお金の勘違い」

【第21回】
日時：27年1月16日（金）14時30分
講師：太田資暁氏（太田道灌18代目）
演題：「江戸城の成り立ち」（仮題）

なお、場所は通常、協会最寄りの「スバル合同会計ビル」をお借りしています。

現在のところ、年間4回開催を原則として当委員会単独開催を旨としていますが、皆様からの要請もあり時には、他の委員会との共催企画もやっております。

去る3月14日に実施した「税制改正に伴う相続・税金・遺言セミナー」や7月10日の「面白世界旅行記」は共催したものです。

最後に、会員の皆様へのお願いです。

当委員会として何時も頭を痛めていることは「次回のテーマ」のことです。

一部の限られた会員からだけでなく、できるだけ多くの会員のご要望を吸い上げたいと願っております。

あまり内容にこだわらず、私どもにとって身近で親しみやすいテーマで結構です。

どうか、ご意見とご希望をお寄せいただくようお願い申し上げます。

社員総会報告

公益法人二年目の成果と創立三十周年の取組み報告

―平成二十六年度定時社員総会―

事務局

平成二十六年度定時社員総会は、五月二十八日築地コンワビル第一会議室において開催。平成二十五年度事業報告と平成二十六年度事業計画および収支予算についての報告が行われた他、①平成二十五年度収支決算、②定款一部変更（社員総会の開催期日について）、③理事二十七名選任、④監事二名選任が審議され、いずれも原案どおり可決されました。

平成二十四年度決算は平成二十三年度には及ばないものの約四十二万円の黒字決算となりました。これには「私の大切な覚書き」の頒布三万六千部、法人・個人からの寄付金百万円強が寄与しております。

平成二十六年度は創立三十周年記念事業の開催、消費税率の引き上げ等を見込んだ上で収支均衡の予算を組んでおります。引続き財政基盤の強化が課題であります。

一　平成二十五年度事業報告

公益目的事業…高齢者の社会参加支援

1　社会参加支援事業（定款四条一項一号）

①社会貢献事業

イ　第十回チャリティコンサートを開催。特別養護老人ホーム等の入居者約二百名をご招待した。

ロ　首都圏の福祉施設二ヵ所へバザー用品を献品したほか、施設入居者作品の販売を行った。広島では例年通りバザーを実施し、広島平和文化センターへ十万円を寄付した。

ハ　生活情報誌「Rプラン」および「私の大切な覚書き」の頒布収入の一％に会員からの浄財等を加え、二十万円を「桃・柿育英会」に寄付した。

ニ　広島で留学生との交流会を二回実施。留学生延べ五十三名が参加した。

ホ　世田谷区特技ボランティアに登録し、施設を訪問して「旅のお話し」をする活動をつづけてきた加藤孝子会員がエイジレス・ライフ実践者として内閣府から表章を受けた。

ヘ　世田谷区下北沢で、毎月一回認知症予防事業「きたざわサロン」を実施した。

ト　五年目となるペットボトルキャップ回収は約二百九十五キログラムに達した。

②就業支援事業

株式会社高齢社を会員に紹介し、就業希望者は同社に申し込む制度を整えた。

③生活情報提供事業

イ　生活情報誌「Rプラン」を、地方銀行を通じ四万六千人に配布した。

ロ　エンディングノート「私の大切な覚書き」三万六千部を頒布した。

ハ　相続と遺言、高齢者住宅などに関する説明会や資料提供を行った。

④イベント事業ほか

イ　関東二十六・広島二十七の同好会が活発に活動し、年間延べ一万人以上が参加した。

ロ　広島支部では毎月開催の二木会（参加者平均百十名）をはじめ、新入会員の集

い、新春放談会等が開催された。

ハ　関東では「はつらつふれあいの集い」を開催。参加者は約百三十名であった。

2　対外事業（定款四条一項二号）

高齢社会ＮＧＯ連携協議会と内閣府共催の高齢社会フォーラムなどに参加・協力した。また書籍「続・頑張って生きようご同輩」の出版に協力し当協会会員も寄稿した。

3　研修交流事業（定款四条一項三号）

イ　講演と交流の場「ふれあいトークサロン」を五回開催。延べ百五十一名が参加した。

ロ　損保マチュリティ講演会は岡崎久彦氏を講師に開催。百六十名が参加した。

4　広報事業（定款四条一項四号）

機関誌「マチュリティ」を年二回発行した。ホームページは年間六千件超の閲覧があった。

収益事業（定款四条一項六号）

「福利厚生施設のアウトソーシング事業」に協力、財政面で成果を挙げている。

その他事業

「マチュリティニュース」「ヒロシママチュリティ」を関東・広島各六回発行した。

当面の課題…運営基盤の強化

1　法人会員…入会一社、退会二社で会員数は二十八社となった。

2　個人会員…会員増強に努めたが退会者も多く会員数は微増にとどまった。

関東　一〇四六名（うち家族会員四二二名）

広島　七〇五名（うち家族会員二四三名）

二　平成二十六年度事業計画

当協会は平成二十六年六月に創立三十周年を迎える。このため、平成二十六年度は①記念講演会の開催、②「マチュリティ」誌記念号発行、③大規模なチャリティコンサートの実施、等の企画実現に組織を挙げて取り組む。

公益目的事業…高齢者の社会参加支援

1　社会参加支援事業（定款四条一項一号）

①社会貢献促進事業

イ　チャリティコンサート及びバザーの開催、認知症予防事業、留学生との交流、ボランティア派遣などを継続実施する。新規事業として高齢者の心身の健康をサポートするための「シニアサロン杉並」を開設する。また、チャリティコンサートは例年の倍となる約三百人の施設入居者をご招待する。

ロ　増加する独居老人等の心身のケアと、シングルマザーの生活をサポートする為のシェアハウス事業などを支援する。

ハ　「Ｒプラン」「私の大切な覚書き」の頒布実績の一％に会員その他の浄財を加えて東日本大震災遺児奨学金等に寄付する。

②就業支援事業

引続き地道な活動を継続する。

③生活情報提供事業

イ　年金受給者を主な対象に、Ｒプラン生活情報誌の普及をはかる。

ロ　エンディングノート「私の大切な覚書き」提供事業を継続して推進する。

ハ　高齢者住宅の現状、相続と遺言、健康・医療問題、成年後見制度などについて情報提供事業を行う。

④イベント事業

イ　関東・広島両地区でイベント事業の一層の活発化に取組む。

ロ　広島支部および関東における神奈川会、京葉会、埼玉会、西東京会の地域会活動

を積極的に進める。

2　渉外事業（定款四条一項二号）

高齢社会ＮＧＯ連携協議会と連携して当協会の事業の目的にかなった活動に取組む。また「公益財団法人・公益法人協会」との関係を密にし、他法人の動向・情報等を入手して当協会の運営に資することとする。

3　講演会事業（定款四条一項三号）

「ふれあいトークサロン」「損保マチュリティ講演会」等を開催する。さらに創立三十周年を記念して著名講師による特別講演会を実施する。

4　広報事業（定款四条一項四号）

機関誌「マチュリティ」を年二回発行する。特に平成二十七年一月発行の第百号は創立三十周年記念号として先人たちの時代の証言などを中心に編纂する。

収益事業（定款四条一項六号）

「企業厚生施設のアウトソーシング」事業などに協力する。

その他事業

「マチュリティニュース」「ヒロシママチュリティ」を隔月に発行するとともに、その内容をホームページに掲載しＰＲに努める。

当面の課題…運営基盤の強化

新規法人会員の加入を促進する。また、法人会員との連携を密にし、情報提供事業を通して協会活動に対する理解と支援を得る。

ホームページの内容を充実するほか、同好会・地域会活動を通じて協会事業のＰＲを強化し、個人会員増強に取組む。

当協会の公益活動を広く訴求し、各界各層の理解を得て寄付金を募る。

エンディングノート「私の大切な覚書き」の頒布活動を強化する。

平成25年度収支決算と平成26年度予算

（単位　千円）

	25年度決算	26年度予算
収益の部		
法人会費	4,310	4,000
個人会費	3,258	3,250
会員負担金	2,956	2,730
Ｒプラン	3,875	3,800
覚書き	6,742	6,000
コンサルティング	3,534	3,200
受取寄付金	1,005	2,000
その他	985	967
合計	26,665	25,947
費用の部		
人件費	4,955	4,770
旅費交通費	1,859	1,657
通信運搬費	1,243	1,118
会議会合費	3,694	3,570
印刷製本費	5,096	5,345
賃借料	4,151	4,099
委託費	1,568	1,560
その他	3,670	3,828
合計	26,236	25,947
当期経常増減額	430	0

（注）　四捨五入の関係で端数は一致しません

（補足）

1．25年度決算はエンディングノート「私の大切な覚書き」の大口受注と法人・個人からの寄付金等により430千円の収支残（黒字決算）となりました。
2．Ｒプランとは地方銀行と提携し、主として年金受給者に配布する情報提供誌です。
3．コンサルティング事業は「福利厚生施設のアウトソーシング事業」に協力して得た収益です。
4．26年度は関東地区に加え広島支部でも寄付金募集を行うため、寄付金収入を2,000千円と見込んでいます。
5．26年度費用は総じて抑制を旨として見積もりましたが、「マチュリティ」誌特別号発行のため印刷製本費が増加する見込みとなっております。

社会貢献活動

石の上にも〝四年〟のきたざわサロン

社会貢献活動委員会　委員長　山鹿　素雄

早いものでこの六月で「きたざわサロン」も五年目に入ります。〝石の上にも三年〟の諺以上に、辛抱しながら努力した結果が実を結んで来たのではないか、と思っている昨今です。入会希望者が多く、入会を断るようになり、それと共に出席メンバーもほぼ定着し、毎月とても楽しんで頂けております。又認知症予防の効果が認められる現象が種々見られ、良く笑い、良くおしゃべりをし、又おしゃれをして来る等、我々の目指す方向は間違っていないと思っています。一方、スタッフとの関係は非常に良く、毎回会話もはずみますし、昨年の親睦会には十人を越えるメンバーが参加して楽しんで帰る様に、日退協という組織も理解して頂けるようになりました。

現在、年間スケジュールもある程度固まって来ており、サポートをするスタッフもそれぞれが特性に応じて少しずつ分担して負担がかかりすぎないようになって来ています。とはいうものの人数はいくらあっても余るという事はありません。新たに「杉並サロン」もこの四月からスタートしました。人数が多い方がいろいろな企画や提案が増え、変化に富み、参加者の喜びも増します。会員の皆様、是非参加してみて下さい!!

この「きたざわサロン」の運営資金を捻出する為に女性スタッフを中心にいろいろな商品を作り、チャリティコンサートや親睦会会場で皆様に買って頂いております。今年も又新商品を含め多数の品の製作に取りかかっており、会場でのお買上げをよろしくお願い致します。

ペットボトルキャップの収集も順調です。平成二五年度も二九〇kgを回収する事が出来ました。ワクチン一五七人分に当ります。今回も神奈川会の力が大きかったです。今後ともご協力よろしくお願い致します。

又、秋のバザーの献品の時期が近づいて参りました。特に「虹の子会」の経営は厳しく、このバザーにかける期待は大きいものがあります。今年もよろしくお願い致します。

これからの日退協において、いろいろと新しい試みがなされようとしております。その基本は、公益法人としての活動の充実を協会一体となって進めて行こうという事だと思います。会員の皆様方と一番良く接している各「地域会」が活発に活動すると共に、それを横断的にまとめて情報を共有化し、どう行動する事が一番効率的かを考えていく為に社会貢献活動委員会と年二回集まって、意見交換と意思の疎通を図る等です。良い成果が出ると思います。将来的には、各イベントと社会貢献活動委が意見交換の場を持つのも良いかもしれませんね。

この秋、創立三十周年を期して大規模なチャリティコンサートを六本木で、又特別講演と親睦会が日暮里のホテルラングウッドで開催されます。皆んなで参加して盛り上げましょう。

東京善意銀行感謝状

公益社団法人日本青年奉仕協会

このたび福祉の増進のため
多大なるご支援を賜りました
貴殿の温かいご厚志に対し
関係者を代表して深く敬意と
感謝の意を表します

平成26年2月1日

社会福祉法人東京都社会福祉協議会
会長 古川貞二郎

東京都社会福祉協議会
よりの感謝状

マチュリティ談話室

将来の独居高齢者を防ぐ取組み

桑山　裕史

将来の独居高齢者を防ぐ取り組みは早急に整備する必要があります。

無縁社会を解消し、単身者の絆づくりをしたいという想いから二〇〇九年に起業しました。シニアとシングルマザーの共同生活や結婚相談の事業を展開している折、榎本理事長とご縁があり、日退協の一員として活動出来る事に感謝しています。

単身シニアは非常に元気でアクティブに活動しており、知識・経験・人脈共に豊富です。しかし、約八割の単身高齢者は、ＡＤＬ（日常生活動作）に支障がなく、自活力を維持しているにも関わらず「毎日、ご飯を自炊し、食べて片づけて、三年経ったが、体の何処もおかしくならず、一体いつまでこの生活が続くのだろう。いついなくなっても誰も困らないのに。世間に迷惑をかけている気がする。」という虚無感があります。モノやサービスを求める以上に〝誰からも必要とされていない不安感〟と〝誰かに必要とされたい〟という想いがあります。

また、シングルマザーも生活課題があります。子供の世話をしなければならない為、時間単位で勤務せざるを得ないです。正社員や基本給上昇は難しく、所得が不安定です。子供の預入施設を考えて転居しようとしても、物件を借りられない、子供を預けたくても費用が捻出できないという負の連鎖が起きています。

単身シニアとシングルマザー「双方が求めている事を疑似家族化（共同生活）する事が実現すれば、補い合えるのではないか」という仮説が、当方の提案するシェアハウスの起点となりました。

現在、独居高齢者が急速に増えています。二十一年後には、六十五歳以上の高齢世帯に占める一人暮らし割合は四十％以上を超えます。トラブル時に手助けしてくれる方が近くにいるとは限りません。「買物難民」「孤独死」といった悲劇を招かぬよう、知恵を絞って地域ぐるみの見守りや高齢者が参加しやすい交流の場を創る事が必要だと感じます。

そして、高齢者に限らず独居を増やさない取り組みも必要です。単身者が増えるのは、子供と同居しない高齢者が増えた事だけではなく、未婚化の影響が大きいはずです。二〇三〇年には、三人に一人が生涯結婚しなくなるとの予測もあります。若い世代の未婚化に歯止めがかからなければ、将来の独居高齢者は更に増えます。当方は、結婚する意欲があるのに、できない人への対策にも全力を挙げて取り組んでおります。これからの明る

い未来に向けて少子高齢化対策は必須であるはずです。

介護保険に思う

広島支部　高橋　義之

介護保険と言うのは、超高齢化社会の今日、大変重要で、切実な問題をはらんでいると思います。

私は現在七十六歳。なんとか元気ですが、年齢が年齢です。七十五歳をすぎた頃から風邪をひきやすくなり、腕が上がりにくくなる等々、なにかと衰えを実感しています。

この先、長生きしてピンピンコロリが理想です。でも、いずれかは、介護される身になるだろうなあと、覚悟はしています。連れも同じような状態になっているかも知れないし、子や孫には、できれば面倒をかけたくないし、いずれは介護保険のお世話になるのかなと、漠然と思っています。

最近の統計では、最高齢期に、妻を介護する男性が増えているそうです。いわゆる夫婦老老介護ですね。八十歳以上の夫婦の内、妻を介護する男性は二〇・五％、夫を介護する女性は八・七％の割合です。男性の介護者の方が、はるかに多い状況です。

夫婦がいたわりあい、助け合うということは、良いことです。然し介護は三六五日・二四時間、無制限に続きます。無理をすると共倒れ、或いはカーッとなって、相手を傷つける事にもなりかねません。追い詰められてはいけません。息抜きが必要です。その為に介護保険があるのです。ホームヘルパーやショートステイ又デイサービス等うまく利用すればいいんですよね。「介護保険の世話になるのは、世間体が良くない」「活用するのはいやだ」「介護施設には入りたくない」といった声を時々耳にします。然し、こういう方が要介護状態になった時には、一体誰に面倒をみてもらうのでしょうか。

翻って、同世代で支えあう我が日退協は、サークル活動などを通じて「健康寿命」の延伸を図っています。社会に大変貢献しています日退協の皆様は、今お元気でも、これから五年・十年先もしもの時、どこで、だれに面倒を見てもらいますか、自分らしさを全うする「終活」の一つとして、そろそろお考えになっては如何でしょうか。

基本的には、介護保険をうまく利用して自分らしい人生の仕上げを築こうではありませんか。但し利用は、必要に応じて最小限度が肝要です。なによりも、まず「自助」（自ら助ける）・そして「共助」（共に助け合う）・最後に「公助」（公の助け）という順序が大事かと思います。

田舎に生まれて

田中　美知子

私は須木村（現・宮崎県小林市）という二千二百人位の小さな村で生まれました。山の向うは熊本県の白髪山が見える所です。

働く所といえば役場か郵便局の仕事（事務員）くらいです。父が山仕事の請負業をしてましたので、多い時は五十名くらいの若者が働いておりました。父の会社の帳簿の手伝いはしておりましたが都会に出たいと思い、働く所はないかと私自身考えている時、父が東京で働く方を探してくれと頼まれたと言っているのを聞き、私は渡りに舟とばかりに飛び

つきました。両親は膝元に置いておきたくて反対でしたが、私は憧れの東京に行って、大変な仕事でもしたいと思い上京して来ました。

若い時は働く事に気を取られておりましたので、宮崎県の方に出合う機会があまりありませんでしたが、同じ会社の人が新婚旅行に宮崎県に行って来たと言われますとうれしいものでした。昭和五十年にガラス工芸の黒木国明さんが、在京須木会を始めたいので手伝ってほしいと云われまして、それから宮崎県県人会にも係わっております。その頃より在京宮崎県県人会に出席させて頂き素敵な方々にお逢い出来るようになり、仲間にさせて頂いております。

青天の霹靂と申しますか、10年前の平成十六年度に在京宮崎県県人会の実行委員長を仰せつかりました。役員の皆々様のお知恵をお借りして無事終えることが出来ました。皆様には大変お世話になり、ほんとうにありがとうございました。

宮崎県県庁の方々や県人会の人達とお付き合いさせて頂き、交際範囲が広くなりうれしく思っております。私は不幸にも子供に恵まれず妹達の子供やそのこども達（小学生や三歳の双子の男の子）と逢うのがとても楽しみです。三歳の子から教わることもあります。保育園でおぼえてきたことを教えてくれるのですが、なるほどなあ……と思わせられます。

私を頼って妹達や姪甥は東京の大学に進学しました。今はりっぱな大人になり会社経営もいたしておりますが、若い人達がりっぱに成長していることをとてもうれしく思っております。

運

広島支部　永山　義博

広島で売っているお菓子で「ルートヴィヒ二世」というバターケーキがある。人気がありよく売れている。このケーキを作ったのが生田さんという人で、「いけた」と読む。先日この人の話を聴いた。

生田さんは広島県の安芸高田出身である。高校を卒業後上京して日本菓子専門学校に入学、卒業後は目黒区の洋菓子店モンブランで働きたかったそうだ。しかし田舎出の小僧ではそれはかなわず、モンブランのチーフを務めた人が経営する凱旋洋菓子店に就職した。ここで菓子作りを一から学んで郷里へ帰ったという。

その後紆余曲折があって昭和五十七年に「バイエルン」という洋菓子店を始められた。そして美味しいバターケーキを作ろうと思い立ち、七年間六千回の試作を経て出来上がったのがバターケーキ「ルートヴィヒ二世」という。このケーキのコンセプトは「柔らかさ」と「甘さ控えめ」であるそうだ。ケーキを作る時、小麦粉は家に例えると骨格にあたるという。そのため柔らかさを追求すると粉を控え、卵を多くするのだが、それでは形がくずれる。また砂糖は多く使うと柔らかさを増すが、控えると脆くなるらしい。このように相矛盾するものでケーキを作るには発想を変えることが必要で、その苦労がなかなか報われなかったらしく、完成まで時間がかかったという。ある意味で運が良かったとも言える。

今、功成って広島市の洋菓子協会長を務めておられる。この生田さんは「運というのは、待っておれば転がり込むというものではない」と言われた。何でもバターケーキの完成に何十年も前の菓子専門学校の時のノートが

役立ったと話された。これが僕には印象に残っている。「運」という字をばらすと「軍」という字と、これを取り巻く之繞（しんにゅう）で出来ている。この之繞は軍隊を運ぶ船の意味があって、日頃から訓練と勉学に努め時機の到来を待つ。そして時機到来となれば軍を進めて戦に勝つ。これが運だという。ここに、「運」を良くするには、強い意志と、日頃の鍛錬を繰り返すことが必要で、ただ寝て待っておればやってくることはないという話だった。考えて見れば、僕も自分自身が「運が良かった」という思いをもっているが、その「運」を自ら引き寄せた感があるのは自分でも七十年の歳月を振り返ると頷けるところが多い。そう納得した講演であった。

大好きなテニスしてますか？

平井　勝子

私は六十歳定年を期に地元のシニアテニスクラブに入会出来ました。入会資格は、男性六十歳、女性五十五歳以上初心者ではない事です。私の腕の方は週二回今も通っておりますが一向に上達しません。

二〇〇七年十月に七十二歳でI氏は「テニスが好きである一言につきる私です。」と自己紹介され入会してこられました。多くの対外試合に参戦され、それなりの結果を出され、勝ちにこだわってきたが楽しむテニスをしてみたいと思い始めた時期での入会だったそうです。その後も会で出している会報の競技会報告欄には常にI氏の名が入賞者として載り続けておられました。

しかしながらお身体の方は順調とは言いかね肩・足・右手・小指と次々故障しお医者通いの連続、テニス保険も請求されていました。とは言えさすがI氏、肩が痛ければ、アンダーのスライスサーブ、右手がダメなら左手打ち、足が痛くても人を走らすコース狙いと、次々繰り出される魔球には皆さん泣かされておりました。仲間との交友ということでは〝エンジョイ〇〇会〟と名付け、泊りがけの合宿、誕生会、カラオケ、飲会と次々企画立案、宿の手配、買物、現地での細やかな心配りと抜群でした!!　私は人集め、連絡係、アシスタントを喜んで引受けておりました。

そんなI氏が、一昨年夏頃から何か変!?新しい企画も全然出てこない!?　シャイなI氏らしからぬベンチで居眠り、衣服の乱れ!?動作!?　周囲の進言もあり奥様にご相談してみました。早速受診された結果、脳の大切な部位に黒い影が映り手術は難しいとの事。ご家族は何もしない決断をされました。

その後はあっという間、自動車運転は出来ませんので奥様のご都合の良い時にご一緒にテニス観戦とお食事、カラオケ。その内一人で外出して警察や、駅からの連絡で真夜中にお迎えに。テニス仲間の連絡も最後まで私に頼られ話が混り合い理解してあげられず悲しい思いもしました。ご家族も身体が元気なのでショートステイ、デイサービス、徘徊に備え衣服に住所氏名をと準備をされておられました。家族構成はお孫さんも含めI氏は唯一の男性でした。これからの長い介護を皆さん覚悟されておられた事でしょう。

昨年三月十日奥様と昼食中寿司を喉に詰まらせ亡くなられてしまいました。私達が異常を感じてから僅か八ヶ月のことでした。

私は思い知らされたのです「やりたいことは先送りせず、毎日を大切にしていこう!!」とIさん！　天国で大好きなテニスしてますか？

ひとこと「東京五輪」

●五輪雑感　荒原竹雄

一九六四年の東京五輪は中学生だった私に世界の広さを知らしめた。体操、柔道、女子バレー、レスリング、重量挙げなど日本選手の活躍に大感激し勇気をもらったが、一〇〇m走のボブ・ヘイズ、水泳のドン・ショランダー、マラソンのアベベ・ビキラなど世界の強さに驚きを感じた。以来五輪ではメダル獲得こそ意義ありと思っていた自分が本年冬季五輪での浅田選手のフィギュアスケートに五輪の原点を認識させられた。

●あと六年は元気で　小野利明

前回の東京五輪は昭和三十九年、その年四月に入社した新入社員の私は早く覚えようと仕事に夢中？　そのため開催中の印象は極めて薄い。それだけに六年後の東京オリンピック開催は朗報で、「生」で観戦できるチャンスと楽しみにしている。そのため、あと六年、更には八十位までは元気で過したいと。そろそろお迎えが来たら素直に従おうと思ってはいたのだけど：そんな話を同輩にしたら、皆そうだ、そうだと同意見。

●「東京オリンピックの思い出」　加藤文男

中学校が駒沢競技場に近かった事から、バレーボール見学応援の割当てがあり、クラスの何人かがクジ引きで試合を見に行きました。私はハズレ。家のテレビニュースで結果を見た記憶があります。高校受験を年明けに控えた中学三年の秋だったので、クジにハズレたという名状しがたい不安と、日本選手達の活躍による高揚感が、個人的なオリンピックの思い出として残っています。

●東京五輪と広島　広島支部　川口　喬

五輪は「平和の祭典」と呼ばれている。前回の東京五輪では、広島県出身で昭和二十年八月六日生まれの坂井義則さんが聖火最終ランナーを務めた。近時、被爆地での広島・長崎五輪構想が話題になったこともある。今回の東京五輪では期間中に原爆の日を迎える。多くの人に広島を訪れていただきたいものだ。今後、行政も外国人観光客等の誘致に力を入れると思われる。日退協も強い関心を持ってしっかり協力したい処だ。

●「東京オリンピック」五十年前は　大学生　広島支部　木下完治

一九六四年十月十日の開会式の入場券は高根の花。白黒テレビに、くぎ付けとなりました。開会直後、人から入場券をいただき、駒沢のレスリング会場へ。ちょうどその時フライ級で日本に金メダルが。「君が代」を涙を流しながら聞きました。記念にとレスリングのイラストの入ったネクタイピンを五百円で購入。今でもネクタイを締めるたびに若かった当時の思い出にふけっています。次の東京大会の開会式に行けるだろうか！

●二〇二〇東京五輪に期待　広島支部　河野次郎

「東京五輪」は、スポーツの中味だけでなく、「経済効果三兆円」「施設建設費四千六百億円」「大会運営費三千五百億円」など、おカネの話にも関心が集まる。

東日本大震災にみまわれ大打撃を受けた後の日本でオリンピックが開かれることは、文句なしに素晴らしいことで、新しい日本を創る最高の機会になると思いたい。そして、日本人の誇りと自信回復の契機になればと願うのは私だけではないと思う。

●「オリンピック」の響き　佐々木弘

四年に一度のスポーツの祭典「オリンピック」。

その言葉の響きを聞くたびに、心ときめくのは何故なんだろう・・・。

多分、いままでいくつかのオリンピックを見てきたが、どの競技の勝者からも敗者からも、たくさんの感動を受けたからではないだろうか。

二〇二〇年の東京でのオリンピック、もしかしたら生で観戦できるかも知れない、そして今まで以上の感動体験ができるのではと思うだけで、心がざわつき気持が高ぶります。

それがオリンピックという響きではないだろうか。

●東京五輪　菅沼隆夫

あの感動は国民の財産だ。昭和三十九年東京五輪のサッカーを観戦、面白いゲームで感動した。あれから半世紀再び東京で平和の祭典の開催に興奮している。反対する者、その予算を福祉に使えと言う。政治家は

子供より選挙権のある高齢者を大切にする。優先するのが違う、これから生まれてくる子供は何も知らずに八〇〇万円の借金を背負ってくる。大切なことは子供達の夢と勇気。五輪の成功でデノミは脱却する。万歳！

●忘れられない後姿　中川洋子

東京オリンピックの翌年、岐阜（私の故郷）で国体が開催され、長良川の土手を走っている銅メダリストの円谷幸吉選手に遭遇しました。

子供心に嬉しくてちょっぴり友達に自慢したものでした。その彼が、過大な重圧に耐えかね自ら命を絶った事に、強いショックを受けました。

今でも彼の後姿が脳裏に焼き付いています。これからの選手の方々には国の為と気負わずに練習の成果を存分に発揮してもらいたいものです。

●オリンピック観戦　中根和子

十六年前の長野五輪では抽選で入場券が当り、一家で白馬へと出かけノルディック複合とラージヒルジャンプ（金メダル）を観戦する事ができました。雪の降る中でのジャンプは大声援に後押しされた日本選手達の頑張りに、私達も大声をだして声援した記憶が蘇えります。ノルディックの距離競技は上り坂の滑りの速さに驚き、声援を送る事も忘れたほどでした。二〇二〇年の東京五輪にはそれまで元気で居られるかなと一抹の危慎を懐きつつ、数々の競技を観戦する心づもりでいます。

●東京五輪の思い出　広島支部　姫野甯尋

昭和三十九年の東京五輪当時、私は大学一年生であった。日本で初めての五輪開催であり、テレビ実況放送や新聞報道で、日本中が熱狂したことを鮮明に憶えている。体操・柔道・レスリング・重量挙げ等の活躍もあるが、一番強烈に記憶にあるのは、女子バレーボール（東洋の魔女）の金メダルである。戦後十九年しか経っていなかったが、五輪開催を契機として新幹線や高速道路等インフラ整備が進むと共に、高度経済成長に加速がつき、日本が先進国入りするキッカケになったと思う。

●東京オリンピックの思い出　広島支部　平岡喜三男

昭和三十九年　東京オリンピックがあった。私が四十歳の時である。私達夫婦と小学生の娘二人を連れて、空路で東京へ行く。その途中、富士山の真上を通過した。その頂上は大きな円形の噴火口であった。その姿の雄大で荒々しかったこと、今でも鮮明に親子四人共に覚えている。（現在は真上の飛行は禁止）。

東京に着き、水泳を観戦する。水泳といえば「フジヤマのトビウオ」時代を懐かしく思い出し、深く感動した。

再び東京にオリンピックが来る。私はその時九十五歳だ。健康を続けて行きたいと思っている。

●東京五輪によせて　比留間文子

東京五輪、決定の瞬間、日本中が感動の嵐でしたね。素晴らしい数々のプレゼンテーションの中「おもてなし」という名言も心に響きました。

日本人の心の暖かさが、一言で表現されて素敵でした。私もおもてなしの心で少しでもお役に立てればと、英会話でも勉強してみたいなぁ～と思いつつ、今は健康に気を付けて日退協会員の皆様全員で、東京五輪の感動を味わう事が出来ます様に、心からお祈りしているこの頃です。

●「二〇二〇年東京五輪」に寄せる期待　広島支部　福田博吉

二〇二〇年に東京五輪が開催される時、私は八十六歳。この世にまだ籍があるだろうか？　そんな身でも五輪には大いに関心がある。

「スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍など様々な差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって理解し合うことで、平和でよりよい世界の実現に貢献する。」この五輪精神に大いに期待しているからである。単なる国別のメダル獲得競争に終らさない事を切に祈る。

●東京五輪　山本宗一郎

「東京五輪」が決定した瞬間、自分の歳に七を足し、小中学生を含む若人は五輪出場の希望と夢を膨らませ、又現役のアスリート達は二〇二〇年に向け更なる技術向上とメダルを目指し、死力を尽くす覚悟であると推察されます。後期高齢者の私達にとってはもう一度東京五輪が見られる幸い、いやそれまで、はたして生きられるか？　何としてもあの興奮と感動をせめてテレビ観戦でと、皆様のお考えは如何でしょうか。

イベントだより

囲碁会

■第47回　囲碁大会

春の囲碁大会が、五月三十日（金）に市ヶ谷の日本棋院で二十四名の参加者で開催されました。

増渕委員長の挨拶の後、対局が開始され、張り詰めた雰囲気の中で熱戦が繰り広げられ、優勝者が左記の通り決定いたしました。

Aクラス　増渕　洋　九段
Bクラス　榎本洋一　三段

各クラス優勝者のコメントです。

Aクラス　増渕　洋　九段

最近は勝負にこだわらず、自分の打ってみたい手を打ってミスをしたり、ミスをさそったりと囲碁を楽しんでおります。久し振りにプレイヤーとして大会に参加し、運よく優勝出来るとは私自身驚いており、今後も囲碁と楽しくつき合っていこうと思っております。

今回も四人の新参加者をお迎えいたしましたが、最近大会への参加者が減少気味ですので、囲碁を楽しんでいらっしゃる方々に、年二回の大会への参加を是非お願いいたします。

Bクラス　榎本洋一　三段

「指運」と言う話がよく出ますが、今回はそれを十二分に感じました。良くなかったかなという手が、結果的に勝ちにつながったりして、喜んでいるうちに四連勝での優勝となりました。最近は少しは囲碁が強くなりたいと思い、インターネットの対局を楽しみながら、定石、手筋などの資料も見なおしています。覚えた端から忘れていくので、嫌になっていますが、何回打っても飽きないし、今後も楽しんで行こうと思っています。

※次回は十月三十一日（金）の開催を予定しています。　**（上村洋一）**

江戸東京歴史散歩の会

■第68回　隅田川七福神巡り

（1月7日　参加者40名）

隅田川七福神は、約二百年前の文化年間に始まったといわれています。向島百花園に集う文人たちが、園主が愛蔵していた福禄寿像に目をとめ、お正月の楽しみとして七福神詣でをしたいと相談。周辺の寺社に福の神を探して、造られたのが隅田川の七福神。ここは六つの寺社で七福神を構成しているのが特徴です。

隅田川に沿って鐘ヶ淵から向島、浅草方面へと向かう約五kmの行程は、道中様々な史跡をたどることができ、うまいものを味わう楽しみもあいまって、江戸時代には非常に人気の高い七福神巡りであったといわれています。今でも都内随一の七福神巡りとして有名で、江戸下町の風情を残す道筋からは、天へとのびる東京スカイツリーも望めるコースです。

七福神巡りの一風景

好天のこの日、四十名の善男善女のご参加をいただき、恒例の七福神巡りが始まりました。さっそく多聞寺（毘沙門天）から白髭神社（寿老人）、向島百花園（福禄寿）と続けて参拝。百花園では皆さん名物の甘酒を求めてほっと一息入れていました。そして隅田川ほとりにある有名なさくら餅のお店を横目に長命寺（弁財天）と弘福寺（布袋尊）に参拝して、最後の目的地三囲神社に到着。この神社は日本橋の三越と縁が深く、そこより贈られた（恵比寿神）と（大国神）が祀られています。本堂脇の三越のシンボルのライオン像が新年を祝うかのように、私達を迎えてくれました。　**（佐久間征二）**

■第69回　人形町界隈散策

（4月15日　参加者42名）

その昔「一日に三千両のおちどころ」と川柳に詠まれた人形町。ここは徳川家康によって埋め立てられた、当時の新しい街の一つ。職人や商人が移り住むとともに、芝居小屋も開

かれ、そこで使う人形を作る人形師が多く住んでいたことから人形町と名付けられたと云われています。ただし正式な地名としての人形町は、昭和になってから付けられました。

初夏を思わせるような好天の中を、東京シティガイドクラブのスタッフの案内で、先ず向かったのが安産祈願のお宮として知られる水天宮。耐震構造の新社殿に建て替えのため、平成二十八年までここ浜町の仮宮に遷座しています。次に人形町通りから明治座までの約四百メートルにわたり、どこか庶民的な店が軒を連ねるのが甘酒横丁。この横丁に甘酒屋があったことから名付けられました。その一角には都内で三大たい焼きの店の一つとして名高い柳屋があり、皆さん名物のたい焼きを買い求めて味わっていました。

人形町にて

続いて一行は、日本で初めて裁ちバサミを製造販売したうぶけやや、お富さんで有名な玄冶店跡。さらに高級料亭の濱田屋や吉田松陰終焉の地として知られる伝馬町の牢屋敷跡、日本橋七福神の末廣神社と小網神社という老舗や名所旧跡をのんびりと散策して、ゴール地点の大観音寺に全員無事に到着しました。都心にありながら、江戸情緒を感じさせる店が点在していて、ちょっとした散策や食べ歩きも楽しい街。それが人形町の魅力かもしれません。いつかまた来てみたいと思いを馳せながら、帰路につきました。（佐久間征二）

園芸クラブ

■一月例会及び新年会

（1月16日　参加者7名）

協会会議室で一月例会を行い、今年の年間活動計画を立案しました。例会終了後、築地へ移動して「つきぢ田村」で新年会を行いました。

■さいたま市尾島農園野草鑑賞会

（4月24日　参加者10名）

ＪＲ大宮駅東口交番前に集合、駅近くの地鶏割烹「河松」で昼食。東口からバスと徒歩で「さいたま市見沼区御蔵の尾島農園」を訪問しました。尾島家は代々続く大きな農家で屋敷林にクマガイソウが自生していることで知られています。クマガイソウ以外にもイカリソウ、アマドコロ、ウラシマソウ、ニリンソウ（いずれも多年草）などを保護、育成して、山野草が開花するこの時期に一般公開しています。

クマガイソウは白っぽい地に淡い紅紫色の網目模様が入った袋状の花を咲かせ、源平合戦で平敦盛を討った熊谷直実が鎧に背負った母衣（ほろ）に例えて命名されたといわれる絶滅危惧種です。イカリソウはカタクリと並んで武蔵野を代表する野草で淡い紅色の四つの花弁からなり形が船の碇を思わせることから名付けられました。

アマドコロは横に伸びた円柱状の茎に筒状の白い花をつけ茎に甘みがあり食用になることから名付けられました。

花は丁度見頃で珍しい野草類を初めてみる参加者が多く好評でした。

農園で一時間半程を過ごした後、武蔵一宮氷川神社へ。けやき並木の新緑が美しい参道を歩いて参詣し、隣接する大宮公園を散策して鑑賞会を終えました。

■市川市万葉植物園見学会

（5月22日　参加者5名）

園芸クラブのメンバーで市川市大野緑地にある万葉集ゆかりの花木類二百種を集めた和風庭園を二時間程見学しました。市川市は「葛飾の真間（まま）の継橋」や「入り江に身を投げた手児奈（てこな）の美女伝説」など真間を詠んだ九首の歌が残る万葉集にゆかりの深い土地であり、その由来から万葉植物園が造られたとのことでした。（杉山　功）

鎌倉探訪

■110回　鎌倉探訪

（4月8日　参加者40名）

極楽寺の秘仏開帳は灌仏会（花まつり）の前後三ヶ日。それに合わせ

て鎌倉探訪を実施。**極楽寺**を訪ね、近くの**成就院**を経て極楽寺坂を歩き、**御霊神社**に鎌倉権五郎景政を偲び更に**光則寺**へ足をのばし、寺域の咲きほこる花、特にカイドウを賞でる。

江ノ電鎌倉より約十五分、極楽寺駅で下車。駅の反対側へ出るともう**極楽寺**。ひなびた山門をくぐると本堂まで桜並木が続く。残念ながら今日は葉桜とまではいかないがそれに近い。この寺には八重一重が一緒に咲く珍しい桜がある。私達が訪れた日はこの花だけは誇らしげに咲いていた。今日は花まつり。参詣人が多い。お目当の秘仏釈迦如来は境内の収蔵庫に安置されている。この他、釈迦の十大弟子像、文珠像、不動明王像などすぐれた古美術が多く、同じ鎌倉二階堂の覚園寺とならんで鎌倉の宝庫。この寺の開山の「忍性」はたとえて言えば私達の協会の社会貢献委員会と同じような精神をもつ僧侶だったらしく社会事業に素晴らしい足跡を残している。かつては七堂伽藍は勿論、病院、薬湯室そして馬の病院まであったらしい。寺の場所は幕府有力者の北条重時の別荘あと地。「忍性」の活躍は重時の後ろ盾が大きい。寺にある忍性像は押しの強そうな面構えをしている。裏山の彼の墓の五輪塔は大きな足あとを残した忍性にふさわしく巨大。寺を出て少し歩くと極楽寺坂。坂を少し下ると百八の階段がある高台に静かなたたずまいの**成就院**がある。アジサイの寺として有名であるが、この日は時期外れ。ここからは鎌倉の町や海岸線が一望できる。昔、坂はこの辺を通っていたらしい。従って坂の軍事的価値は高く、ここが新田義貞の鎌倉攻めの時、激戦地だったことが頷ける。坂を下りきり左手の「力餅家」という菓子屋の前の細い道に入り江ノ電の踏切を渡ると**御霊神社**がある。地元の人に権五郎さまで親しまれている。鎌倉権五郎景政を祭る神社。隣接の星月会館で昼食後、神社を散策。タブノキの大木が印象的。長谷の通りを十分程歩いて**光則寺**へ。この寺は北条時頼の近臣である宿谷光則の邸あと。カイドウが有名で花の寺として知られている。カイドウはさして珍しくはないが、こんな大木はそうそうは見当らない。寺域の花も見事であるが寺の背後に迫る山の新緑の美しさも見逃せない。

恒例の打上会では初参加の人の感想の披露があり、盛況であった。

■111回　鎌倉探訪

（5月16日　参加者31名）

111回のイベントは「古刹で法話を聞き、新緑の鎌倉山を散策する」というテーマを設定。まず**青蓮寺**（別名鎖大師）で弘法大師像を拝観、法話を聞いた後、緑したゝる鎌倉山を歩きそばの店**「櫺亭」**で昼食をとる。夫婦池公園を経て**仏行寺**に梶原源太景季の塚を詣で、深沢小学校の裏にある梶原一族の墓とつたえられるヤグラをお参りした。

深沢小学校前にて

最初に訪ねる**青蓮寺**は大船よりモノレールに乗り西鎌倉で下車、十五分程大船方面に歩いた所にある。「鎖大師」として親しまれている。弘法大師像にきものを着せ両足が動くようになっている。昔は鎖でひざが動くようにしてあったので「鎖大師」の名があるとのこと。本堂で法話を拝聴後、旧江ノ島道を通って鎌倉山の**「櫺亭」**へ。急峻な山道で足の弱い人にはキツイ。昔の人は足腰が強かったと感心する。**櫺亭**は江戸時代の豪農の屋敷あと。昼食を楽しんだあと、広大な庭を散策。三万坪の敷地は山の高低を利用し石仏、茶室もある回遊式庭園。五月の新緑を満喫したのち自動車の往来がはげしい通りを避け、急な階段を下り**夫婦池公園**へ。公園の緑したたる背景を楽しみよく整備された道を歩く。公園の池の土手では十数匹のカメさんが甲羅干ししながらお出迎え。ここを通り抜け**仏行寺**へ。銅板葺きの山門をくぐった正面が仏行寺の本堂だ。本尊は十界互具曼陀羅。本堂左奥の石段を登ると墓地に出る。石段わきのつつじはこの日は盛りをすぎていた。更にのぼると鎌倉時代の武将梶

原源太景季の片腕が埋められているという**「源太塚」**がある。直径五m程の円形塚。景季は頼朝の信任篤く、幕府の要職にあったが頼朝の死後、讒言にあい鎌倉を追われ駿河で戦死。その死を悲しんだ妻の信夫はこのあたりで自害し、彼女の霊は毎夜夫を偲び泣き続け、その声は村人を動かし、慰霊のため仏行寺を建立したと伝えられている。鎌倉市深沢小学校の裏手のヤグラの中にある四つの五輪塔は**梶原一族の**墓といわれているが、一族の滅亡の地が鎌倉ではないところから真偽のほどは定かでない。単なる伝説にすぎないのでないかと言われている。

ただし、鎌倉市梶原の地名は梶原一族がこのあたりに住んでいたことに由来するそうだ。

今日はみどりの匂いがおいしく感じる一日であった。

恒例の打上会は盛況。

（110回、111回とも藤﨑大四郎）

カメラ同好会

十二月は前月の上野動物園の作品と自由作品を持ちより成果を競った。好天に恵まれ親子連れが多く動物達の動きに歓声を挙げていた。遊び道具の「タイヤに戯れる白熊」アシカの子が「餌をせがむ」面白いシーン等が入選した。自由作品では新宿御苑での「藤の実」や六義園の「深まる秋」東京駅通路の「花絵」等が好評であった。一月は撮影会を中止し「正月風景」又は「冬景色」を課題に作品を持ちよった。明治神宮での献上銘酒の数々を「じっと眺める若者」「晴れ着姿の女性達」「氷の彫刻」など又軽井沢の「ツララのアート」等見事な作品が選ばれた。三月は雨天中止となり「春の風物」を課題とした作品を競った。四月はマチュリティ裏表紙の作品を選定する月であり「高尾山の火渡り」外人の子の遊ぶ姿を捉えた「むずかしいよパパ」が選ばれた。自由作品では上野公園の「路上のライブ」神代植物公園の「アベック白木蓮」が好評であった。五月は「江戸東京たてもの園」の撮影会を計画したが雨模様のため自由参加とし「五月の風物」を課題とした。どうぞお手元のカメラを生かしてお気軽にカメラ同好会にご参加下さい。

（七澤義人）

カラオケ同好会

カラオケ同好会は昨年の六十二回を持ちまして終了とさせていただきましたが、十年続いた会をなんとか継続したいと思い、有志で相談し次の内容で継続することにいたしました。隔月に奇数月第四土曜午後二時から五時まで、会場は銀座八丁目早乙女倶楽部、会費三千円。第一回目すなわち六十三回目を一月二十五日に、第二回を三月二十二日に、第三回を五月二十四日行いました。現在会員は十三名です。女性会員は一人ですので是非女性の方の参加をお待ちしてます。

（日高三誠）

木楽会

四月七日から六日間、我々の日頃の成果を発表する展覧会が、築地の茶の実倶楽部で催されました。作品の大きさを統一して（A4の用紙にB5の画像）摺ることにしたので、額縁が同じ規格で、鑑賞し易くなり大変好評でした。

毎年、発表の機会を設けたいので、これから来年のために、作品作りに入ります。毎月第二、第四金曜日に日退協の会議室に集まって情報交換をすることにしています。失敗の解決策、新しい技術、材料の動向、作品の原画検討など。特に原画の段階で煮詰めておくことは、作品の出来栄えに影響する、大切な手順です。自分の意図を作品に反映させるためにも、他人の視点も大事です。彫り進むと途中での修正は非常に難しく後戻りできません。

年賀状、暑中見舞い、誕生カード、蔵書票等の小さな作品を作ってみるのは、大変楽しいものです。初めての方には、易しい画を基に、簡単な道具と材料で、彫り、摺りが出来る様に指導します。但し、結構体力を使い、集中力を求められますので、ボケてる暇はありません。

木楽会は、会員が相互研鑽を旨としていますので、特に授業料に相当するものは徴収しません。質素堅実な同好会です。

（藤本元明）

四季の会

■第7回イベント「曹洞宗大本山總持寺の見学と精進料理」

（3月28日　参加者39名（男性20名女性19名））

ＪＲ京浜東北線鶴見駅から徒歩十分余り。眼下には海が広がり、背後には富士山という横浜鶴見丘絶景の地にあります。

見学は修行僧の案内で二手に別れ、研修道場として一般にも解放されている三松閣、長い長い歴史を磨き込んだ百間廊下、法要や仏式結婚にも使われる放光堂、メーンの仏殿、大祖堂、大黒様が祀神の香積台などなど。これらの中には国や県などに登録されている重要有形文化財や建造物が数々あり、貴重な見学でした。

昼食は「精進料理」。料理を作る、食べるは座禅や作務同様、仏道の一つにされているので、勿論修行僧の手づくり。筍やうど、せり、ふきなど旬の献立でした。

最後は墓地見学。ここには有名人のお墓が多く、石原裕次郎のお墓は↓の案内板がありました。その日も蘭が供えられていました。その人の人生を象徴するデザインの墓石、記されている遺書などつい惹き込まれてしまいます。

駆け足の見学会でしたが、総持寺には歴史的意義だけではなく、広く一般に開放された新しいお寺のあり方を感じた一日でした。**（豊田和子）**

總持寺山門

詩吟同好会

■詩吟が誤嚥を防ぐ？

我が同好会は発足して、この八月で一年を迎えます。あっという間、というのが実感です。それは、講師（薄井是道先生）の力量に依るところが大きい証左でもあります。

安い授業料にも拘らず、ひとり一人誠に懇切なご指導には頭が下がります。その上、生徒全員に各人の本数（音階）に合わせた吟詠ＣＤを作成し、無償で配布していただいています。これで、生徒は我が家で練習に励まざるを得ません。

そして、月一回の練習日には必ず、違うテーマで話をされることです。簡単なようでこれはかなり骨の折れることで、先生のご苦労を察します。お話の中身は詩吟に限らず、健康に関わる内容が多いので、高齢の生徒には健康談議にもなります。

技術的な発声法は別にして、丹田発声法とか、いかにして「唸り、吼えて、吐く」かは、如何にも健康法に直結しています。

五月の例会テーマは、①内臓の活性化、②言葉は柔らかく、③余韻はしっかり吟ずる、でした。独居高齢者によく見られる「誤嚥」の原因は会話がなく、ましてや大きな声で唄（詩）を詠うことがないからということで、それを防止するには「詩吟」が最適と得心した次第です。

現在、生徒数は発足時と同じ九名ですが、あと数名の余裕はあるとのことですので、健康長寿を志向する方の入会を歓迎します。終わった後の一杯はまた格別です。**（岩渕芳夫）**

自然を楽しむ会

■第46回　東京港区「自然教育園」

（4月22日　参加者15名）

十時半に目黒駅東口をスタート、目黒通りに沿って約十分歩き、白金台に入って庭園美術館を過ぎると、

国立科学博物館附属自然教育園にて

「国立科学博物館附属自然教育園」という厳めしい名前の入口に着く。入園料を払って（シニアは無料）中に入ると、柔らかい緑に包まれた静かな空間だ。

白金長者や大名の屋敷、皇室御料地として何百年も使われ続けたため、植生が自然のまま保たれ、一九四九年には天然記念物・史跡に指定されて一般公開。都心部にあるとは思えない貴重な緑深い公園地です。

入口からの小道の両側が「路傍植物園」で、沢山の種類の草花や樹木が多彩に花を付けていて、一々名札が添えられ、更に鬱蒼とした高木・巨木の下を奥へ進んで中央部の「ひょうたん池」に至ると、この付近は屋根のある休憩所もあり昼食の好適地だ。ここで四十五分休憩。

午後は「水生植物園」→「森の小道」→「武蔵野植物園」→「水鳥の沼」→「館跡」→「路傍植物園」と巡り、「展示ホール」が最後。

締め括りのミーティングをして出園。目黒通りを戻り、駅近くで懇親会組は「ジョナサン」に消え、帰宅組は目黒駅で解散（三時すこし前）。

なお今回は雑草シリーズ（ミニ図鑑）第十冊目を各参加者にお渡しした。

（店網俊夫）

水墨画教室

■第37回東邦展開催

（於東京都美術館　4月18日～4月23日）

書道と水墨画が一同に展示される公募東邦展、三十七回目を迎え我が教室からも日頃の腕を振るっての九点そして講師飛田硯水先生の大作二点が出品展示されました。入賞者は次の通り。

飛田先生（前列右から２番目）を囲んで

（理事長賞）菊池　功水

（東邦院賞）須釜　汀水

昨今上位入賞者が現われ、教室の志気も向上、誠に嬉ばしい事です。

■飛田硯水　水墨画作品展

（雨引観音・本坊展示室　5月1日～18日）

十一回目を数える個展・飛田硯水先生は、我が教室の講師を努める傍ら各水墨画教室を主宰、この度の会場となった雨引観音は、八十年ぶりに秘仏の御本尊「延命観世音菩薩」の御開帳お手綱を行っており、このような記念すべき年に作品展を同時開催出来る事は、誠に素晴らしい事である。今回新築の雨引観音ご本坊展示室に於ての初めての作品展の開催に当たり我が教室からも有志者参加、お参りを兼ねて鑑賞させて頂きました。

■日本水墨院春のバス旅行に参加

四月二十五日バスによる山梨忍野八海めぐりの旅が、日本水墨院主催で企画され、教室より五名参加しました。忍野より望む富士は、誠に素晴らしい景観である事は周知の通りであり展覧会には、かなりの頻度で登場する画題であります。好天に恵まれ、富士の山も最後には頂上迄見せてくれて、まさに絶好の景色をカメラに収められた人が多かった様で何よりでした。季節折々の情景を脳裏に刻み、意義ある研修小旅行となりました。

（須釜栄作）

竹とんぼ同好会

二月、三月はひたすら竹とんぼの羽をサンドペーパーで削りました。五月には立川・国営昭和記念公園で国際竹とんぼ協会主催の関東大会が開催され、せっかくの機会に希望者はこの大会に参加して、竹とんぼの本格的な競技会を経験することと、竹とんぼを通じていろんな人達と交流したいと考えたからです。その場合の参加資格は「自分で作った竹とんぼ」です。結果的に元協会長の講師は別に、生徒である私たちの仲間は四人参加しました。残念ながら今回競技には参加しませんが、参加した人は高度をどうして測るのかとか、全国から集まった同好の士が一生懸命竹とんぼを飛ばして頑張っている姿に感動したとの報告を受けました。そして私たちの講師は純竹滞空（竹

だけで作ったトンボで滞空時間を競う）部門で見事三位入賞を果たしました。記録は十二・七五秒。優勝の記録は十四・九三秒。羽の形と竹とんぼ全体の絶妙なバランス、飛ばすときの気合がぴったり合わないと生まれない記録です。

四月には社会貢献活動委員会の協会を代表する活動である「きたざわサロン」で参加者に楽しんでもらうイベントとして「バランストンボ」の作成を予定しているので、わが同好会でもサロンのスタッフが多く、本番の予行演習を兼ねて、友禅模様の千代紙を使ったバランストンボ（ヤジロベエのようなもの）を作成。これは五月のきたざわサロンでも大うけでした。

竹とんぼ同好会の一風景

日退協・社会貢献活動はスタッフのボランティアと毎回親睦会やチャリティコンサートの会場でバザーに作品を出品して皆様のご協力で貴重な活動資金を得ています。今後も趣旨ご理解の上引き続きこの面でもご支援をお願いいたします。

さて、わが同好会では竹細工に興味がある方々の参加を歓迎します。毎月第三水曜日午後三時から四時の開催ですので、希望者は協会事務局までお問い合わせください。

（富川　正）

築地・海鮮丼川柳会

■課題「挨拶」

出来ちゃった婚の両家は初対面　**一星**

さよならに加え転ぶな風邪ひくな　**高・和子**

ただ今もお帰りもなくドアー開け　**多美子**

■課題「席」

産休育休開けたら席が無い　**久江**

末席で酔って宴会ぶち壊し　**一星**

これも社用ブルーシートで花の番　**弘**

■課題「逃げる」

また今度その一言でまた逃げる　**あさじ**

非常口のようなポーズで見る震度　**光男**

理不尽を見て見ぬ振りの側に居る　**弘**

■課題「発見」

ベランダのブルーベリーへ小さい秋　**弘**

ケータイに耳と口とが有ると言う　**多美子**

新薬へ並ぶお金のある順に　**弘**

■自由吟

和室にも椅子席喜寿のクラス会　**八穂子**

消費税風袋のよう重み来る　**南穂子**

また今日もＰＭ高く家籠り　**岩・和子**

ホーミーで甚句をハモル土俵上　**瑞男**

年毎に弾む心も変化球　**艶子**

七千歩目指した先に梅の花　**弘純**

長生きへ血の悪玉を善に変え　**道花**

知らぬ間に身体むしばむ添加物　**貴香子**

★平成二十五年度　年度賞

正賞

抜け出たい仮説のドアが開かない　**南穂子**

準賞

世界には命の秤いまだ無い　**弘純**

その内にオプションになる台所　弘

◇早いもので創立十周年

当同好会も早や十年。五月の例会でささやかな祝いの会を催し、和気藹々に盛り上がりました。この会の魅力は何といっても津田暹先生の軽妙洒脱なご指導。感謝！**（杉山光男）**

デジカメクラブ

コンデジ、ミラーレス、一眼レフ等々、デジカメクラブは全種類のデジカメを対象にしています。

和気あいあいの雰囲気で、得意分野をそれぞれ自由に追求します

例会では、おもにパソコンモニターで自分の作品をプレゼンします。その後、全員参加で侃々諤々、意見交換になりますが、多くの場合、最ヴェテランの総評で締めくくられます。その他に、作品造りや、写真技術に関わる疑問点を討論したり、新技術、展示会など情報の交換も時に応じて実施しています。

撮影実践の場として、年数回の撮影会を行なっています。折々の花、紅葉など季節の移ろいや、街角の風景などを追いかけます。

これらの緩やかで自由な活動を通じて、各人の技量は近年着実に進歩していると思います。

私ごとですが、一眼レフを六年ぶりに更新し、この間の進化がまさに革新的であることを実感しました。

中でも高感度撮影時のノイズは旧カメラと比べて別次元と感じました。デジカメの過去十年はフイルムカメラ代替の歴史と言われますが、この成功は成りゆきで達成された訳でなく、具体的に課題を設定し、ひとつひとつ解決したカメラ業界の努力のたまものであることを教えられました。デジカメは今後もその進化を見落とせない分野であり続けると思います。

さて、写真上達の秘訣は良い作品を数多く鑑賞することに尽きるといいます。良い作品の良い刺激を受けることが大切ということだと思いますが、その作品が身近な仲間の手になるものであつたとき、刺激はいっそう大きいものになり、活動のポジティブな動機になるように思います。

デジカメクラブで一緒に学び、楽しみませんか？

毎月の第一水曜日一時半、日退協会議室でお待ちしております。

（菅　克之）

読書くらぶ

読書のたのしみの一つに良書にめぐり合う喜びがある。読書中にはたから何か口出しされ、それに返事すると喜びが少なくなる気がする。たとえて言えばその喜びは少年時代の「少年クラブの発売日と夕食はカレーライスの日に匹敵する」と阿川弘之氏はエッセイの中で述べられているが、まさにそのとおりと思う。そのためには紙の書物がどうしても欠かせないところだが、最近のネット文化は活字文化を駆逐せんとしていると感ずるのは思いすごしであろうか。若い人にも是非、紙の文化を大事に、読書の面白さを堪能して欲しいものです。

ところで最近「ビブリオバトル」という一種の知的書評合戦があるそうであるが、私達の読書くらぶはお気にいりの本を紹介するというところまでは似ていますが、書評はしないし、レジュメは各人の裁量にまかせている肩肘のはらない自由なくらぶです。自分の言葉でイチオシの本の魅力を語る寄合です。御多分に洩れず私達は高齢化を絵に書いたような集団ですが、取り上げる本、話題、トピックスはアップ・ツー・デートです。ちなみに五月例会ではホットな話題として韓国問題が取り上げられています。

（藤﨑大四郎）

ＰＣクラブ

ＩＴ（アイティ）関連サロンを目指し始めた当クラブはそれなりに運営が定着してきました。ある日の例会を紹介してみます。

ｅ－Ｔａｘについては、今頃？と感じる人も多いかもしれませんが、パソコンをやっていると実感できるテーマとしてとりあげ、医療費の資料が昨年度からエクセルになって利用し易くなり、何といっても還付が早いメリットを再確認し、食わず嫌いの人にも「百倍分かり易いｅ－ＴＡＸ」を改めて学習。

一方「知りたくないの」「忘れな草」など懐かしい曲の原曲の解説に全員うっとり。併せて日本にドレミファソラシが入ってきたのは「ほんの少し前」のこと。少し脱線して「君が代」が国歌と制定されたのは「つい最近」のことと知るなど、「音楽を百倍楽しむＣＤ談義」に満足。

また、関東大震災以降の東京を８人の版画家が措いた百景のなかから「東京駅」「英国大使館」「清洲橋」など見慣れた場所の現況のデジカメ画像と対比させた「百倍面白いデジタル画像・東京百景」も東京の移り変わりが具体的に理解できました。

パソコン遠隔操作の犯罪は今回はあっけない幕切れとなりましたが、最早ＩＴ（アイティ）と無関係の生活は考えられない毎日です。常に便利な一面と、簡単に情報漏洩等犯罪に結び付くリスクをうまく理解しながらこれからもこの便利なマシンとシステムに付き合っていきたいものです。

（富川　正）

木版画教室

■卓上カレンダーの共同制作

木版画、私も体験してみたいと言う方はどうぞいつでも会員か事務局へご連絡ください。

当教室は、毎月第二月曜日の午後一時から協会談話室で開講されます。今年の活動の目標は、昨年に引き続き卓上カレンダーの共同作成です。

卓上カレンダー（完成百セット）の制作は、会員がそれぞれ担当の月を分担して受け持ち、十月の教室に

持ち寄る共同制作です。回を重ねるごとに技量も上達して、知人友人に好評を博し、最近では完成を待たれるようになって、会員の制作にも大きな励みになっています。

作品は、日退協の社会貢献委員会にも寄付し喜ばれています。教室の雰囲気は和やかに楽しく進みます。

右の他通常の教室は自宅で取り掛かっている仕掛り中の作品を教室に持ち寄り、これらを教材にしながら、小泉先生の懇切なご指導をいただいて作品に反映し、仕上げて行きます。

これからも経験と修練を重ねて、いずれは教室主催の作品展を開くことが夢になっています。

年中会員募集中です。体験入室は、大歓迎いたします。（山本鴻之介）

木版画教室の一風景

歴史を考える会

■第128回、第129回「わが現代史遍歴―明治4年から憲法発布まで」

講師　鈴木俊二会員

（11月25日、1月27日）

鈴木講師は、かつて「昭和史遍歴」として十二回にわたり担当され、くわしい説明が行われています。今回は更に遡って明治四年から憲法発布までについて、説明がありました。

十一月二十五日には「§1岩隈使節団の目的と結果、§2留守政府が行ったこと、§3征韓論が起こり、敗退す」の三章についての他に、和歌山沖で生じたノルマントン号事件についての裁判をめぐり、不平等条約改正の必要が認識されたことが説明された。

我が国が朝鮮に国交を申し入れたが、応じない。皇の字を使っているのが問題だとして、日本を相手にしない状況であった。外遊から帰った岩倉、大久保等は征韓論に反対した。留守政府は陸軍省・海軍省を設置し、徴兵令等を実施し、廃藩置県、天皇制・中央集権国家の形を作った。§4で西南戦争がなぜ起きたか、§5明治十四年の政変がなぜ起きたか、§6国会開設前に板垣、大隅、伊藤はいかに行動したかを説明された。

明治維新は薩長土肥の武士団によって為し遂げられ、中でも薩摩が最強とみられていたが、その力も新政府軍により削がれ、言論により対抗することになり、政府は明治二十三年に国会を開設することを約束した。

■第130回、第131回、第132回「朝鮮半島関係資料」

講師　和泉屋　正一会員

（2月24日、3月24日、4月28日）

この三回の説明だけでなく、五月以降に続きが予定されています。詳細・大量の資料であることに驚きました。資料の内容について、元寇と高麗以下、日露戦争前夜の日本と朝鮮についてくわしい目次がついています。「歴史を見る時、複雑なものを複雑に見ることが大切で、単純化することは危険」との言葉の説明がありました。

朴正熙が満州軍官学校を志願し、「命捧けて忠誠」という内容の血書を書いていたという新聞記事が紹介された。そして日本の韓国併合をそう悪いとは思わないとの言葉も紹介された。明治開化期に日本と朝鮮について、国交が進まないだけでなく、朝鮮国内の対立もあり、フランス艦隊やアメリカ艦隊の襲来もありました。

日本による江華島事件については歴史的評価はさまざまである。明治八年五月に釜山の港に日本の軍艦が現われ（雲揚号）、六月には第二丁卯艦が渡来している。朝鮮内で守旧派と開化派の対立があり、日韓交渉も決裂した。両国で正式会談を行うとの約束も守られず、日本に対して破約と絶交を突きつけた形となった。江華島事件は雲楊号への砲撃事件であるが、日本の砲艦外交というのは過大評価であろうと思われる。この砲撃事件よりも重大なことは、朝鮮が交渉の約束を破っていることであると日本側は考えていた。

（佐野　了）

首都圏だより

神奈川会

■第37回イベント「金沢動物園と横浜自然観察の森」ハイキング

（11月22日　参加者22名）

今回もまた快晴・無風のハイキング日和に恵まれた一行は定刻に京急金沢文庫駅を出発。バスで金沢動物園に直行し、世界各地から集められた草食動物を目を輝かせて見物しました。中でも目玉のコアラの生態を二人の女性飼育員から説明を受け、皆さん童心に帰って熱心に聞き入っていました。

金沢動物園にて

幼稚園児の団体と暫く交歓して元気をもらい、園内をゆっくり見物・散策してから、休憩所・ベンチでの昼食タイムに入りました。

食後、午前中に見残した動物を貪欲にほぼ全て見てから、「六国峠ハイキングコース」に挑戦。直線距離はわずか三キロ程度ですが、曲がりくねった上り下りが激しく、長い階段が続くなど、平均年齢七十数歳の一行にとってはかなりきついコースでした。それでも途中の紅葉を愛でながら全員無事目的の自然観察の森管理棟に到着。待っていたレンジャーから森の概要（面積は東京ディズニーランドぐらい）・動物・鳥・植生などの解説を聴き、住宅街ではとてもお目にかかれない珍しい生態も観察できました。

暫しの休憩の後、近くの県道まで下り、バスで金沢八景まで行って解散しました。お疲れ様でした。

恒例の反省会は八景駅近くの豆腐料理が自慢の居酒屋に十四名も参加し、強行軍の一日を振り返りながらお酒と料理を堪能しました。

（飯田吉辰）

■第38回イベント「横浜にぎわい座で落語鑑賞会」

（2月5日　参加者36名）

神奈川会として初の試み、また本年一番の冷え込みにも拘わらず三十六名の参加を得ました。桜木町駅から近い横浜にぎわい座（館長は「笑点」の桂歌丸さん）に集合。ロビーで法被・扇子を借用してパチリ。

最近の「笑い」はテンポの早い、賑やかなトークが若者に受けていますが、江戸時代から連綿と隆盛を維持してきた落語には伝統芸能、大衆芸能として確立された奥深く上品な笑いが満ちています。

中入りを挟んで前座、二つ目、真打二人、色物二人と進み、トリの春風亭柳橋の名人芸を堪能し、まさにお笑い三昧の二時間半でした。皆さんの顔の筋肉はほぐれ、ストレスも解消した愉しい半日でした。

二次会は十七名の参加、幹事の趣味と実益を兼ねた下見の効果もあり手頃な値段で和気藹々とアルコールとトークを楽しみました。

（中井順一）

■第39回イベント「生麦事件参考館訪問とキリンビール工場見学」

（4月25日　参加者34名）

晴天に恵まれ、一行は京急生麦駅を後に昔薩摩藩士も通った片側一車線の旧東海道を歩み、ほどなく生麦事件碑に到着、事件を偲びつつパチリ。

生麦事件参考館長浅海先生のお話を聴く予定でしたが、ご入院のため、先生の講演ビデオを視聴しました。汗を拭きながら立ちっぱなしで語る一時間。その迫力と深い知識に感銘して、一同画面に向かって拍手喝采！　参考館には事件に関する多数の貴重な古文書や錦絵が展示されていますが、ご高齢のため残念ながら閉館されるそうです。

参考館から数分で、美しく手入れされた庭園に囲まれたキリンビール横浜工場に到着。見学は原料の麦芽を噛みホップを嗅いで始まり、巨大な仕込み釜の説明や環境対策・酒税の話などがあり、最後には試飲まで用意されていて、皆さん大満足の一日でした。

二次会は十八名が参加。試飲の下地があったのに、談論風発でいつもより酒量が増えました。**（中井順一）**

京葉会

■第8回　東京の下町とスカイツリーの散策

（3月17日　参加者29名）

春の到来を感じる絶好の天候に恵まれJR錦糸町駅から徒歩五分、錦糸公園が今回の出発点です。公園の目玉、王貞治顕彰コーナー生憎の休みのため、山岡鉄舟旧居宅から勝海舟居住の地に向かいます。途中は北斎通りと呼ばれる通りで、富嶽三十六景を中心にした北斎の版画の複製シールが楽しめます。ここからは親水公園に沿ってスカイツリーに向かいますが、途中法恩寺は太田道灌ゆかりのお寺で、鬼平犯科帳にも度々出てくるお寺がありました。さらに進むと面白そうなレリーフが目に飛び込んできます。本所（墨田区南部）に江戸時代から伝承された奇談・怪談「本所七不思議」の一部が掲げられているのです。「おいてけ堀」「片葉の葦」などを楽しんでいるうちに終点・スカイツリーのふもとに到着です。イベントとしてはここで解散し、希望によりスカイツリーにのぼる人、宙町を散策する人などに分かれましたが、どっぷり東京下町を楽しんだ半日でした。

（佐久間征二）

錦糸公園にて

■第9回　手賀沼の水辺散策と白樺派文人等の足跡を訪ねる

（5月30日　参加者14名）

我孫子市・手賀沼湖畔は大正時代から昭和初期にかけ「北の鎌倉」と称され志賀直哉、武者小路実篤等が住居を構えたりしたことで、白樺派の拠点となったところです。

常磐線の我孫子駅前にある県施設「けやきプラザ」十一階の展望台で富士山から筑波山まで三六〇度の展望を楽しむはずが黄砂等の影響で叶わなかったものの手賀沼を囲むこれから訪れる地域の俯瞰を頭に入れて地元ボランティアガイドの歯切れよく分かりやすい説明に全員足取りも軽く手賀沼公園入り口から、白樺派同人・柳宗悦邸、志賀直哉邸、白樺文学館等白樺派の足跡を訪ねて歩きました。

最後は手賀沼親水広場にある「水の館」でかつて水質汚濁ナンバーワンの汚名返上の努力などを見学して全行程を終了。今日は真夏を思わせる気候ながら全員元気に完走し、その後希望者による懇談会でも活発な交流が図れました。

（漆原眞佐雄）

手賀沼公園にて

埼玉会

■首都圏外郭放水路見学（「江戸東京歴史散歩の会」と共催）

（3月10日　参加者43名）

首都圏外郭の治水対策と聞いて神奈川ともかく埼玉・千葉両県の洪水対策と思っていたが、実情は春日部地域一体の対策として造られたもの。とは言え数千棟の家屋が浸水から免れる由。洪水は大きな河川より中小の河川の氾濫による被害の方が大きいと聞いてびっくりした。放水路とは、一帯の溢水を一時的に貯め込み江戸川に排水する装置を言う。簡単に言えば、東京スカイツリーの総工事費（約二三〇〇億円）をかけて、池袋サンシャインの容積を地下に埋め込んだ巨大な神殿とも言える。水槽には馬鹿でかい柱（幅二m、長さ七m、高さ十八m、五〇〇トン）が五十九本もあり、天井を支えるのは勿論、地下水の浮力防止に必要な重量らしい。全長六・三kmの間に浅草五重塔がすっぽり入るような立杭を五本設置して洪水を集め、放水路に流入させる。溜め込んだ水は江戸川

の水質保全のため長く留めておけず三日程度が限度で、一秒間に二十五mプール一杯の水を汲み出すポンプがまたドでかい。まさに我が国の土木技術・工学技術の粋を集めて作られた装置で、弘法大師が生きておられたらどんな感想を持っただろう。一見の価値がある。

春日部駅から約六kmの地にありタクシーが便利だが、春・秋の散歩にも好適。事前に申し込む要有り。

（高橋　淳）

■第16回　片倉シルク記念館の見学と熊谷桜堤のお花見

（4月4日　参加者21名）

日本経済の基礎を築いた製糸の歴史を伝える「片倉シルク記念館」を見学。ここは片倉工業最後の製糸工場であった熊谷工場の繭倉庫を利用して記念館にしたものです。製糸業一二一年に及ぶ歴史を末永く保存継承するために、操業当時に使われていた製糸機械が展示されています。管理員の明快な説明によって、選繭、煮繭、索緒・繰糸、小枠湿し、副蚕、揚返し、糸捻り、括造り、荷造り、検査といった繭から生糸になるまでの工程が紹介されました。さらに、製糸業最盛期当時の片倉工業の業容が偲ばれました。此処でしばし時代の息吹を感じた後、江戸時代から櫻の名所と知られ、近年「さくら名所百選」に選定された「熊谷桜堤」でお花見を楽しみました。前夜の雨で危ぶまれた天候も此処を訪れた時刻には、まさにお花見日和となりました。満開の櫻と菜の花のコントラストが実に見事でした。しばらく堤を散策した後、参加者一同満足のうち、解散となりました。

（地畑健吉）

熊谷桜堤にて

■埼玉会第４回総会・講演会の報告

（5月19日　参加者32名　於シーノ大宮）

埼玉会創設五周年の節目を迎え今年で四回目の会員総会を五月十九日（月）午後一時より、さいたま市生涯学習総合センター・シーノ大宮センタープラザで開催した。

冒頭にゲスト参加の榎本理事長より、日退協創立三十周年を今年度六月に控え、日退協の歴史と使命のご説明を受け組織としての在り方や新たな息吹が力説された。

第一部は関根代表幹事から、今までの活動状況や今後の活動計画について概括的な話があり、最後に会員増強の必要性を訴えた内容となった。

続いて、各担当世話人から前年度活動報告、今年度活動計画がＯＨＰによる画面中心に行われた。埼玉会の年数回のイベントもますます多彩となり、会員のアイデアや希望が取り入れられ、年三回開催のゴルフコンペによる交流も濃密となっている。また創立来のワンコイン運動（基金活動）も東日本大震災の双葉町避難所への支援活動も継続された。

最後に参加者全員の自己紹介を兼ねた一言コメントがあり、地域会としての交流のおいなる盛り上げになった。

第二部は記念講演会に移り参加者も三十四名となり、テーマの「認知症の予防と治療について」の関心の高まりがうかがえた。

講師は本部役員のご紹介で川並汪一日本医科大学名誉教授の登場となった。

同氏は認知症相談センターや「街ぐるみネットワーク」事業等の豊富な経験と西洋医学と漢方医学を取り入れたユニークな解説が興味深く出席者を魅了した。

いまや我が国でも認知症患者が四〇〇万人を超え、またその予備軍も同数以上と推察される状況下、シニア層として多大な関心を深めている認知症問題への貴重かつ強力なご縁を作ることができたことは大変有意義であった。

終了後は直ちに参加者の懇親会に移り近くのお店で開催。川並名誉教授ご夫妻も特別参加され、アルコールの勢いもあり談論風発。それぞれの人生の達人たち、元気老人のユーモアあふれるやり取りに、さすがの蘊蓄を感じた一日であった。

（芝山　茂）

西東京会

■第3回　総会について

（12月10日　参加者17名）

昨年十二月に三回目となる西東京会の総会を国分寺・労政会館にて開催しました。西東京会は、平成二十二年十一月に設立総会を持ち、平成二十三年一月に第二回総会を開いて以来です。西東京（三多摩地区）に在住しておられる方は約九十名おられます。その方々にご案内状を出状致しました。ご高齢で出席不可能な方、又ご都合のつかない方も多々おられ、ご返事は約六十パーセントの五十五名でしたが、ご出席者は、十七名にとどまりました。今回は、本部の森副会長にもご出席頂きました。西東京会の西納副会長の司会で三時より開始致しました。冒頭に森副会長より公益法人になってからの協会の現状等について解説を含めご挨拶を頂きました。その後約三十分程の時間で会長を引き受けております湯藤より「日退協三十周年行事」「会員増強への取り組み」「財政問題……法人、個人会員への寄付金依頼、私の大切な覚書きの拡販」を取り上げての報告を行いました。又西東京会発足してからのイベントの実績と新年度の計画案について説明を行いました。出席者との質疑応答も行われました。後半は「一般社団法人　全日本かるた協会」副会長十段永世名人　松川英夫氏と読み手として一流の六段　芦野恵子様に卓話をお願いしました。時期的にも正月かるたを迎える季節であり、日本の伝統である「かるた」にまつわる奥深い内容の話でありました。総会は五時過ぎに終了し、松川永世名人にも加わって頂いての懇談会を席を移して行いました。楽しい懇親の集いは約二時間で閉会。

参加人数は少々期待外れでしたが、盛会の内に終了しました。

（湯藤　哲）

■第10回イベント　春の国営昭和記念公園で桜を愛でる会

（4月3日　参加者20名）

大変な雨の中の半日でした。東京は三月二十五日には桜開花の発表がありました。その後ほぼ晴天も続き順調に桜の花の蕾も綻び満開へと進んでおりました。当日四月三日は曇空でも何とか天気がもつよう祈っておりました。そして前日の天気予報では午前中雨、しかし昼頃からは曇空ではとのこと。若干迷いもありましたが決行する事にしました。今回は三十名からの申込みも頂いておりました。ところが当日は朝からの雨が昼を過ぎても止まず、かなり激しく降られました。結局参加申込者十名はキャンセルとなり二十名の参加となりました。十二時に西立川駅に集合雨の中傘をさしながら入園致しました。桜は見事に咲き誇り垣間に見える桃の花、連ぎょうも彩りを添え素晴らしく綺麗でした。但し流石に散策する人は少なく晴天時の公園の賑わいからは程遠い光景でした。とにかく入口近くのレストランで昼食を皆で取りました。雨足は一向に衰える気配もない為、若干の方々は引きあげたり途中から帰途につかれたりしました。結局、かなり降る雨の中を十四名のメンバーが桜の園へ向って散策を始めました。まさしく雨中の行軍の体でした。途中雨宿りも兼ね日本庭園の休憩所等で息をつきました。桜の園は満開の桜の大木に囲まれ、菜の花が一面に咲き写真撮影には最高の場所でした。しかし傘の雫の中から見る風景は霞がでて霞んでおりました。少々気温も低く、足早に帰途の立川口の出口へと向いました。途中の種々の花々も綺麗でした。三時半に十四名は無事立川口に集合しました。その後徒歩約二十分で立川駅前に予め予約しておりました食事処で懇親会を行いました。四時から約二時間、十四名は簡単な自己紹介を順繰りに行った後和気あいあいの懇談を行いました。こんなひどい天候の中を強行し、幹事としては反省致しました。しかし日退協の会員の方々お元気で楽しい一時を過しました。

（湯藤　哲）

昭和記念公園にて

広島支部だより

グラウンド・ゴルフを楽しむ会

広島支部　グラウンド・ゴルフを楽しむ会　代表世話人　梅中　義之

私達の同好会は、会員の健康保守・体力増進と併せて、会員相互の親睦、親交をより一層深めることを活動目的としています。定例競技大会の実施が中心です。原則として近郊の公認グラウンド・ゴルフ場を選定。送迎バスを利用して、年五回、上期（四・五月）と下期（九・十・十一月）の競技を行っております。

平成二十年七月発足。六年目を迎え、現在までの競技実績は、三十一回を数えました。会員は四十六人、一回の平均参加者は、三十四人です。

グラウンド・ゴルフは、自分には厳しく、他のプレイヤーには優しくの精神で、エチケットとマナーを特に大切にするスポーツです。

競技には、個人戦と団体戦がありますが、私達は、個人戦で競っております。チーム編成は、通常一チーム四～六人です。プレイは一ラウンド八ホール。各ホール三打でパープレイです。

ホールインワン一回で、マイナス三打でスコアを記録します。

一打目は、スタートマットより打球し、直径三十六センチの「ホールポスト」の輪の中に停止（トマリ）するまで競います。ホールポストを廻り、その総打数が少ないプレイヤーが勝者となるゲームです。

グラウンド・ゴルフは「従来のゴルフ」とは異なり、クラブ一本でプレイすることができます。

最近高齢者にとって大人気の競技で、健康維持の為には最適なスポーツです。

私達は、「春の新緑」・「秋の紅葉」の良き季節を選んで、野山を囲む風光明媚な、天然芝コースの場所で、和やかな雰囲気の中、楽しく三ラウンドプレイをしています。

プレイ後は、温泉で汗を流し、疲れを癒し、席を囲んでの談笑。プレイの反省を忘れず、「ノミニケーション」を図り、次回の競技に向け、お互い腕を磨き特訓して、栄冠を目指し努力することを誓っています。

栄冠に輝いた上位入賞者は、地元新聞に成績が掲載されます。これが、唯一の励みになっています。

今後も、世話人として、喜んで参加でき、心身共に健康で明るく、楽しい余生が過ごせることを期し、思い出に残る良い企画をしていきたいと思います。

グラウンド・ゴルフに興じる皆さん

参与 加藤孝子さんが再び顕彰されました!!

前号（98号）で、社会貢献活動委員会の委員としてご活躍の加藤孝子参与がエイジレス・ライフ実践者として昨秋、内閣府より表彰されたことを紹介しました。そして再び、去る六月五日に一般社団法人JP生きがい振興財団理事長（元警察庁長官）から、全国で四人のうちの一人として感謝状が授与されました。

同財団は地域住民の生きがいの増進を図るとともに地域社会活動の推進に貢献する者を顕彰することにより「安全・安心な地域社会の実現」に寄与することを目的としています。

東京都警察官友の会理事として日頃から北沢警察署管内で全交番の激励訪問をされたり「きたざわサロン」でも加藤さんの要請を受けた北沢署員から参加者への講話により防犯（特に振り込め詐欺防止）意識の高揚を図るなど、地道な活動が評価されたものです。

三十周年記念行事のご案内

事務局

平成二十六年は当協会創立三十周年に当たります。これを記念する企画の一部をご紹介します。

お友達もお誘い頂き一人でも多くの方のご参加をお待ちしています。

一、チャリティコンサート～家族への愛

日時：十月四日（土）　一時半開場
　　二時半開演

会場：ハリウッドホール
（六本木ヒルズ　ハリウッドプラザ五階）

新刊紹介

『続・頑張って生きようご同輩』

日退協が加盟している高連協（高齢社会NGO連携協議会）から新刊が出版されました。題記の書名で一年前に出された同名の本の増補改訂版です。

第一部には子供の頃の戦争体験を次世代の方へ伝えるべく追加。

第二部は定年を迎えた各人がどのような生き方を模索したか、その本音の特集です。

高連協共同代表・樋口恵子・堀田力両先生の寄稿も掲載。日退協のメンバーも四名が執筆しています（文章毎の執筆者は公表されていません）。是非ご一読下さい。

もよりの書店にない場合は、左記へご連絡下さい。

（森　保）

博文館新社（担当）大橋智枝
TEL　〇三－六四五八－三八五七
FAX　〇三－五六〇四－三三九二
〒116－0002　荒川区荒川五－九－七
定価　一二〇〇円＋税

出演者　芝沼美湖（ソプラノ）
川口真貴子（メゾソプラノ）
榛葉樹人（テノール）
近野賢一（バリトン）
赤塚太郎（ピアノ）
谷藤万喜子（フルート）

今回は例年より規模を拡大し、総勢六百人の参加を予定しています。そのうち三百人はご招待する福祉施設入居者の方となります。

二、記念講演会

日時：十一月十三日（木）　二時半
会場：ホテルラングウッド
（ＪＲ日暮里駅南口徒歩三分）
講師：堀田　力氏
（さわやか福祉財団理事長）
演題：超高齢化と我々の生き方（仮）

三、親睦パーティ

（第十五回はつらつふれあいの集い）
記念講演会に引続き、ホテルラングウッドで開催します。
手作りの親睦会となるよう、アトラクション出演者を募集中です。

写真公募のお知らせ

前号（98号）でもお知らせした通り、来春1月発行のマチュリティ誌は節目の100号となります。

また、ご承知のように当協会は去る6月18日でめでたく創立30周年を迎えました。

そこで、100号を三十周年記念号として位置付けると共に、この記念号に限り表紙と裏表紙の写真を公募とします。

応募要領は左記の通りです。

1. 「表紙写真」：「富士山」に限定する。
2. 「裏表紙写真」：各地の「〇〇〇富士」
※1. 2ともに季節不問
3. 締切り：今年の10月31日（金）

なお、今までにマチュリティ誌に掲載された写真、特に古い写真を探しています。お手元にある方は、ぜひ、お知らせいただくようお願いします。

（編集委員会）

【訃報】顧問　米村　司　氏
当協会創立に尽力された国際派

当協会顧問の米村司さんが、創立三十周年を迎える今年、二〇一四年一月九日に、逝去されました（享年八十六歳）。

米村さんは、当協会創立時の理事で、創立に係る諸準備に尽力されたおひとりです。

初代理事長の布施禍一さん（当時・社団法人金融財政事情研究会理事長）などの発起の下、金融財政事情研究会の理事であった米村さんは、高齢化の進むアメリカに範を求めて全米退職者協会（現ＡＡＲＰ）へ調査に赴き、交流を深めて、機関誌の題名『ｍａｔｕｒｉｔｙ』を併用する許可も得たのでした。

国際派、学究肌の米村さんは、金財を定年退職後、愛知学院大学の教授を務め、当協会の監事、顧問を歴任して、当協会が公益社団法人の認可を受ける堅確な筋道について厳しく指導されてきました。

私は米村さんの早稲田大学堀江ゼミの後輩で、金財、当協会と第一、第二の人生の永きにわたって〝鬼の特訓〟を受けてきました。深甚の感謝を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

（専務理事　有馬弘純）

公益社団法人 日本産業退職者協会 役員名簿（50音順）

（平成26年7月1日現在）

役員

会長 山本惠朗
副会長 森保
副会長 山鹿素雄
理事長 榎本郁夫
専務理事 有馬弘純
専務理事 関根貞夫
専務理事 田林巖樹
常務理事 細江謖夫
常任理事 安藤隆夫
常任理事 井上国春
常任理事 上神圭二
常任理事 高島進一
常任理事 西納政光
常任理事 畠山忠昭
常任理事 湯藤哲
常任理事 渡部俊一
理事 糸数冨美江
理事 大里璋子
理事 倉片厚子
理事 黒木重昭
理事 佐久間征二
理事 橋本隆夫
理事 藤崎大四郎
理事 松多昭三
理事 水上幸雄
理事 満田将太
理事 山田雅彦
監事 横堀尚昭
監事 江口俊治

顧問

梶田省三
久野木行美

参与

市川千尋
猪股辰雄
岩澤良信
岩渕芳夫
梶谷浩
加藤孝子
岸良明
越中幸夫
芝山茂
鈴木俊二
鈴木裕史
高橋淳
田中昭二
富川正
長澤哲夫
日高三誠
三砂善之介
鷲山俊男

編集後記

▼「特集」で、日本版ＩＳＡとして拡がりつつある愛称・ニーサ（ＮＩＳＡ）を採り上げ、大和証券（株）営業企画部から、判り易く解説していただきました。これから投資を始める方は無論、既に始めている方にも必読の内容です。

ただ、気になることは金融庁発表による3月末時点の利用状況です。口座数が６５０万、投資額1兆34億円で、利用者の約65％が60歳以上となると、各世代間に必ずしも浸透していない実態が見えます。

▼「ふれあいトークサロン」は、ひとつが時宜に適った政治テーマであり、片方は知っているようで知らない「東京駅」の話です。

前者はアジアにおける我が国の立ち位置を考える上で、多くの示唆を与えてくれます。また、後者は東京の表玄関の今昔物語を丁寧に解説し興味深い中身になっています。

▼社員総会報告（14頁）と事務局からのお知らせ（38頁）にもある通り、今年は協会創立30周年記念として、従来にも増して質量ともに充実した行事が予定されています。

公益社団法人としての真価を問われる3年目の年でもあり、皆さんの一段のご支援を期待いたします。

▼「写真公募」については、前号に続いて今号でもお知らせしましたが、ぜひ、積極的にご応募いただきたいと思います。

昨年の富士山文化遺産登録を記念し次号に限り、本誌の表紙と裏表紙の写真を「富士山ずくめ」にすることにしました。

今や、「ご当地富士」は３００を優に超えると云われています。

ふるさとに思いを馳せながら、自慢の作品を数多くお寄せいただくようお待ちしています。（Ｉ・Ｙ）

MATURITY・第九九号

二〇一四年七月二〇日発行

発行人 榎本郁夫
編集人 岩渕芳夫
発行所 公益社団法人 日本産業退職者協会
〒101-0026 東京都千代田区神田佐久間河岸51 第一スレートビル7階
電話 〇三（六二八一）九三八一
ファックス 〇三（六二四〇）九三八二
ホームページ http://www32.ocn.ne.jp/jarip/

※無断転載を禁ず

法人・団体　会員名簿

（平成 26 年 7 月 1 日現在）

株式会社イトーヨーカ堂
共栄火災海上保険株式会社
一般社団法人金融財政事情研究会
五洋建設株式会社
ＪＦＥスチール株式会社
株式会社損害保険ジャパン
宝酒造株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
東京建物株式会社
株式会社千代田セレモニー
トーア再保険株式会社

西松建設株式会社
日本カーボン株式会社
日本興亜損害保険株式会社
一般社団法人日本損害保険協会
ヒューリック株式会社
富士火災海上保険株式会社
文唱堂印刷株式会社
株式会社ベネフィット・ワン
丸大食品株式会社
丸紅株式会社
みずほ信託銀行株式会社

株式会社みずほフィナンシャルグループ
株式会社ミツウロコホールディングス
安田不動産株式会社
ユニバース開発株式会社
株式会社リサ・パートナーズ

（五〇音順）

会員の作品から

◀佐渡のユリ

岡野　静江

数年前、佐渡へ旅行した折に買い求め我が家の庭に移植したユリです。
株数も増え、梅雨空を忘れるほどに美しく咲きました。

むずかしいよ　パパ▶

越田　文子

新宿御苑には外国の方々が大勢みえていましたが、この男の子もパパと一緒に楽しそうにさくの所で遊んでいて、とてもかわいかったので思わずシャッターを切りました。

◀「熱くないかな～」
火渡り風景

水島　正利

高尾山山麓の広場で行われた火渡り祭り、山伏が諸願成就を祈りながら素足で歩いた後、一般の人も素足で歩いていました。

花田植▶

紙田　一宏（広島）

花田植は広島県北の初夏の風物詩。
囃し、早乙女、飾り牛等の華やかさの中に、躍動感ある大太鼓の写り込みにシャッターを切りました。

公益社団法人　日本産業退職者協会©